諸物名所巡覽圖彙

四

播磨名所巡覽圖會卷之目録

御菊澤 ほたる塚　牛堂山國分寺 本堂 開山堂 五智如来 金毘羅 弁天 観音堂 城山天神 牛塚　壇場山

德證寺　御地蔵　印鑰の河　神明宮

動使　市川　御靈河　石辻塚跡　姫路城 姫山

惣社大明神 本社十六社 一宮 二宮 稲荷 坪きゝ 羽束橋沢 人丸社 角の宮 金毘羅 庚申 神明 蔦路 くろ口 荒神 天神 ひへ〜主

惣思 神楼 神水 御供不 神鹿 秋白松八幡 御誂不 小社迄洛ゑ 府中深迷 年中行事 冠石

逢松原　刑部大明神　皿屋敷　梅雨松

月岡 上地沢　日月の河　雄山 長尾山 大歳社 天満宮 鬼岩山 十三石橋沢

慈恩寺　長岡長者宅地　傾城淵　姫路寺

手枕堂　國府寺跡塚　萩田坂塚 古墓 播磨広嶋

紀陽德寺寺　心光寺 黒田氏石塔　國府渡

芸日明神　三九傳門渠 那珂塚　歯神　雲見川 雲見橋

紀矢明神　末座日明神
會松原　矢乃浦
丁濱塚
大日森　妻藤孫三郎墓
祢磨澤
清水
孫三餅
若一宮子權現
星田若清水
高松寺
亀井寺法
東山稲荷　宮佐傷恵美酒祠　地を接す紀伊若　麻生神社
松原八幡　大発祠　末社八祠　御座石　新向石　孤石　女夫石
麻布山
堅田井　糸麺
八重弁山
新羅明神社　妻藤
黒田氏墓　妻藤川渡
國府山古城
速川祠
濱天神
飾磨寺遺跡
御牽櫓
乃辻ノ社
日蓮蓼
宅倉村
羽山古城
老國
白國大明神
石室
長谷山觀音
庶山城跡
長着原畑
人見塚
大歳祠
老僧岩
左ゑ門　念佛堂
風羅堂　蓑塚

增位山　本堂　護摩堂　經堂　弁天女殊堂　觀音堂　右ゑ門堂
山王　開山堂　開聖弁　陣屋　政所　柳原墓
廣峯牛頭天王社　三大神　八王子社　白幣社　軍殿　地蔵社　天社
又社　護王不　冠着殿　九郎神宮　奥流
廣峯古城
白幣山
亀山本德寺
孫高峯
御田植神の國
甲山神社
高岳神社
手柄山
御繪
夏苅川
稲岡
妻山
秦武縄ゑの
綱敷天神
白牛
山王山八幡
誉田明神
八葉神社
村橋兵庫神社
書山
濱法澤
稲岡社
大歳社
加茂社
笘編
泰田祠
三和大明神
平地星
書山社
御石濱
御牟隈
勅書淵
飾西澤
寂法寺
天濱宮
妻凡岡
笠寺藥師
一ノ宮神社
英賀城跡

義寺　大樹清水
女人堂　紫雲堂
札納石　念佛者　護王石　桂沢
天祢　砥石岩　烏帽子岩
文殊者　市田墓　濯頂水　釈迦堂
不動者　両天護王　奥院　武部墓
揖保　黒岡明祢
楽く天祢　極楽寺遺跡
揖岩城趾　揖安清水
二王門　弥勒堂　聖霊桂沢　昭堂　弱凝松　檀特山
徳樓　富小川　泰田明祢　踏石　七橋
糸乃安　ゆうり安　阿宗祢社
八幡宮　小山田高家　書麦を刈る地
金輪山小笠原　桑原寺　揖保川　古居
熊見　宮浜弟河　板石城趾　朝日山大日寺
書寫山圓教寺　如来論観女者　弥陀丹
釈迦如来　阿弥陀堂
来迎石　茶所
坂本城趾　水田城跡
同天祢　竹川
根本寺　古田寺
姫路山姫路寺　本多釈迦　某陣
観音　三層塔　山王社
班鳩鑼
松尾山観音寺

鶴立山大光寺　林松寺　天満宮　丁村　陳屋
山王桂沢
化粧坂　家鴨　院家鴨　飯盛山　芝浦　宮浦　家鴨祢社
天祢泉　観音滝　丹下鴨　松鴨　鍛冶鴨
赤坂清水　家鴨
大鴨　大蛾　加鴨　小豆鴨　とびしま　鴨岩　長身浦　院鴨　坊勝鴨
る鴨　ゆう鴨　揚う鴨　松鴨　佛岩　八郎岩　相撲石　鍛冶鴨
白多岡　破鈴祢社　風早炭　大黒岩　稲根
峯相山鶏足寺跡　古師村　健岩男墓　法岩寺
殺天照祢社　祢屋窪　岩屋城趾　一筋川
大塊村　林田陣屋　祝田祢社
白安水　殺寺柳　丹枫
琵琶山　八幡宮　法岩安
松山城跡　紫招城跡　彩宮陣屋
張義雅次墓　窪山城趾　佐見山
水波女　嫁岩窪
去の松原
龍眼本
志多
久本鑼
那祇山祢社

御着驛　御蓋村と云若花山法望書寺山御幸の時宮の御宿所なり御蓋村と云ふ説あり御着の名のみ遠くつたへ伝ふ祈功寺山の御蓋なりしなり。村中天川大歳社あり西福寺と云寺あり延命村の古地なり

御着古城　村中に遺址あり村上源氏の末裔赤松家の本城なり城と寺門と寺加賀守則祐の命名なり日蓮聖人の来臨ありて大永の比建立なり

牛堂山國分寺　牛寺と云　三社庄國分寺村にあり　正十五代聖武天皇十二年天平十年詔して國毎に國分寺を建るとなり續日本紀曰毎國の僧寺封戸十戸水田十町を給ふ尼寺封戸十戸水田十町僧寺は元二十町なりしを寺の名を金光明と天王護國寺と改て尼寺を号て法華滅罪の寺と云ふ又國寺尼寺曰南大門より奥院までの間南北二里余東院西院の間東西六十余町なり南大門より本堂より二十町下の三社の二階堂と云ふ是を本尊薬師如来長四廊あり奥院八重畳の長谷にて本尊観音東院阿弥陀大日山の物見の西院の市場よりて本尊薬師如来なり本堂の内陣観音六尺の薬師佛之釈迦阿弥陀十一面大威徳日月二天十二神将又寺内に七佛の薬師あり

しかくれば尼乃大寺にて堂上の後に造営あり寺中約四箇相續して今小又別寺号の五九九堂上にて其後一寺と建今のごとく地面に大礎の残りしるい甚多し

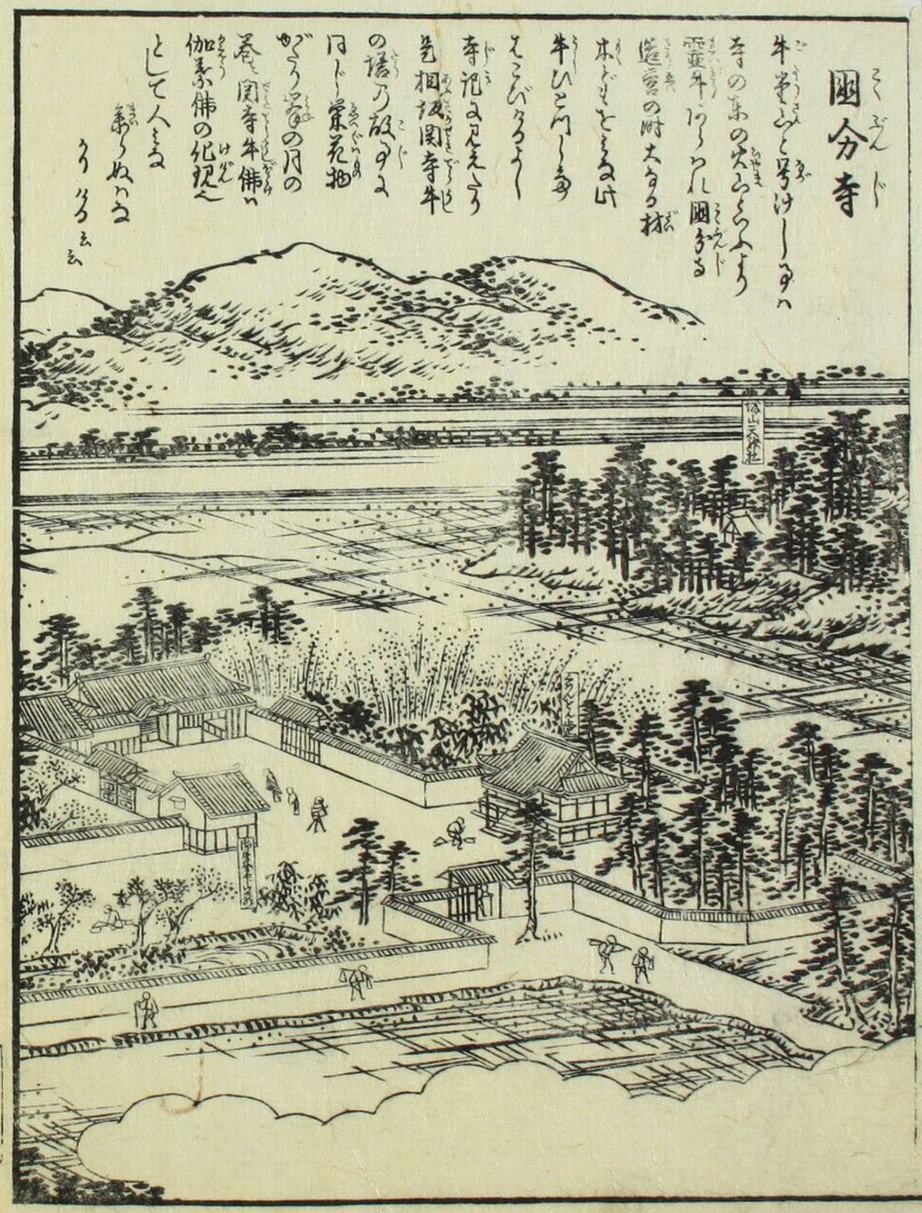
とと拂森　鬱蒲

唐猫谷　花垣清水

城部淳左衛　亀の山

國分寺

牛若丸と号けしゆへ
寺のあの大ふくよう
霊牛にてこれ國多る
遊雲の附大なる樹
木ぐもとなる氏
牛ひとりしゆ
えこびるよう
寺況ゆえよう
先相坂関寺牛
の塔の故ゆえ
ほとゝ業花抱
ぐうゆの月の
養ゝ関寺牛佛い
伽羅佛の紀況ゝ
として人ゝる
ゆゝぬいる
うゆるゝ



ゆる
関ゝより牛ゝ
心とりけゆゝ
みゝを城ぬ
あゝ坂の実

牛若丸の牛の
係あり幼年
時中と帰る氏
法度を
繰ゝと
ゝ

牛塚
国分寺より北丁斗小田の中にあり是古へ人の寺内にて飼ひし霊牛を葬りしと云伝ふなり

壇場山
寺の東北にあり里人これを壇場山といふ又今廃たる薬師山ともいへり　又俗に誤て俗伝に神功皇后三韓退治の時祈らせ給ふ壇場なりとも云○是は上の丁壇の東に弁ぜしごとく古人の山陵なり
壇場の事信じがたし○又国分寺造営の時にも神功皇后又上宮太子の寶を入給ひて霊地示されたるなど縁起に見えたり

徳證寺
御着村にあり是昔の国分尼寺の跡なりといへり後世一人の尼蓮如上人に帰依して一向宗となれり

御野庄
此あたり十ヶ村の庄号なり　俗伝に神功皇后旌旗鉾を立給ひし所にて鉾旗野と号け合せて三枝庄と云又御野庄とも書之　是神功の故事によりて名づくる所なり
武云高光の狩場とあり既に交野のみの雪の曙などよめるは今枚方の禁野なり惟喬親王の狩場也後成卿の歌に
きじたつる狩場の若菜くちなて　おもひ出しいさ帰りなん
此歌にても知るべしクチといふ人の名の地名も上鈴中鈴といふにてしるべし

印鐸祠
山脇村の氏神也神功皇后御凱陣の旗の鈴を納め給ふとなり
按に印鐸は先軍令の鐸也本鐸金鐸あり今村に蓋などの故なる鈴といふも即鐸なり只飾に用ゆる物には非ず鐸路の鈴も常より将軍に給ふ所の印なり日本紀垂仁十五年鐸石別命と云あり○此山の上と八幡鉾山といふ

神明宮
山脇村にあり祭神陽神の本地は大日如来実は両部習合の旧たり　神仏の混淆多く久しく神の実を失ひし故に唯一の宗旨を説る人もあり

勅使
村号也小川村の南にあり　勅使塚又止宿し給ひしより此名ありとぞ　書写山修造の時

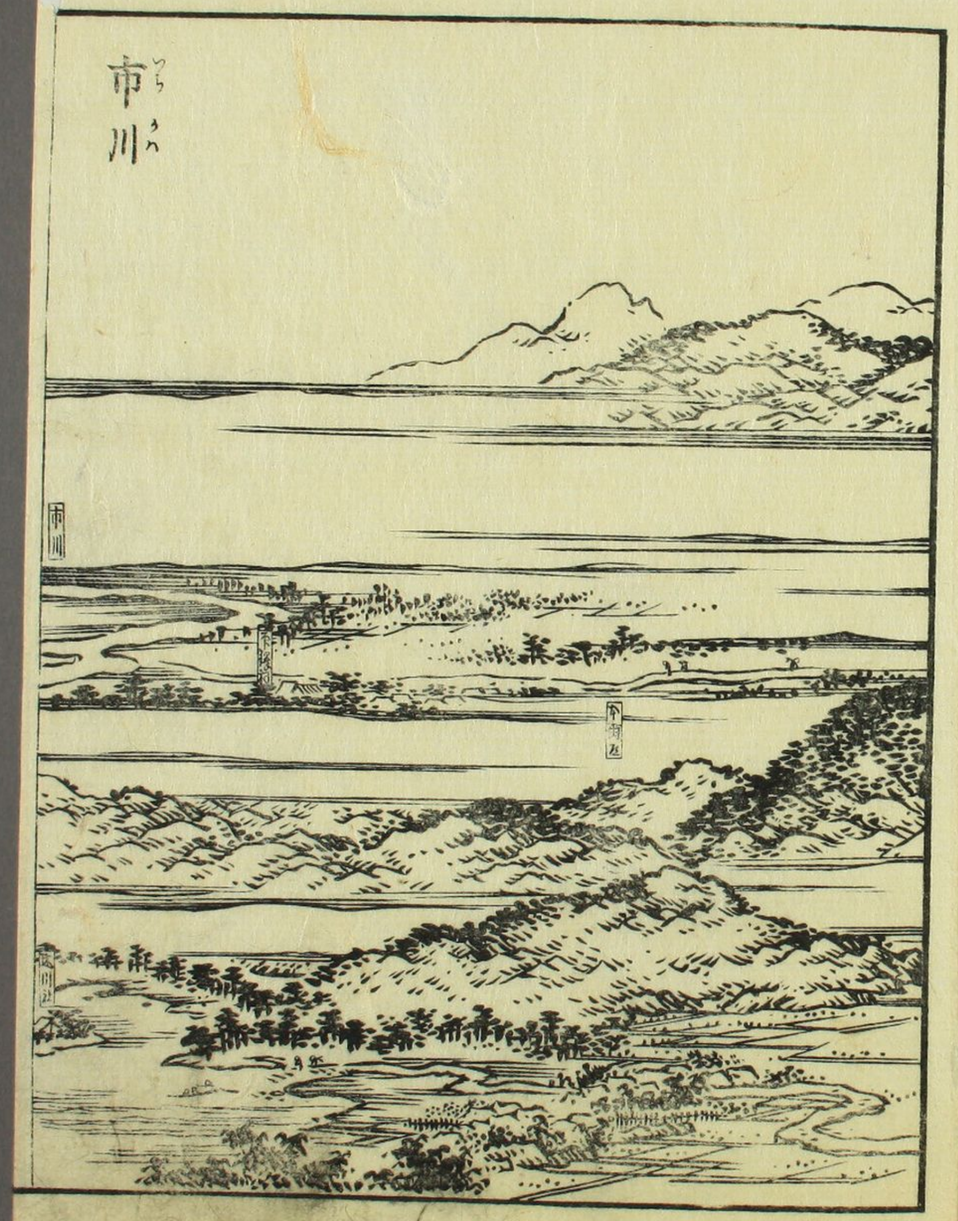
市川
国衙庄市の郷の源は但州より出て小桜神東神西の二郡の境を流れ中條より二流となり西を妹背川といふ市川は姫府の東を流れ妻鹿河原の南にて海に入

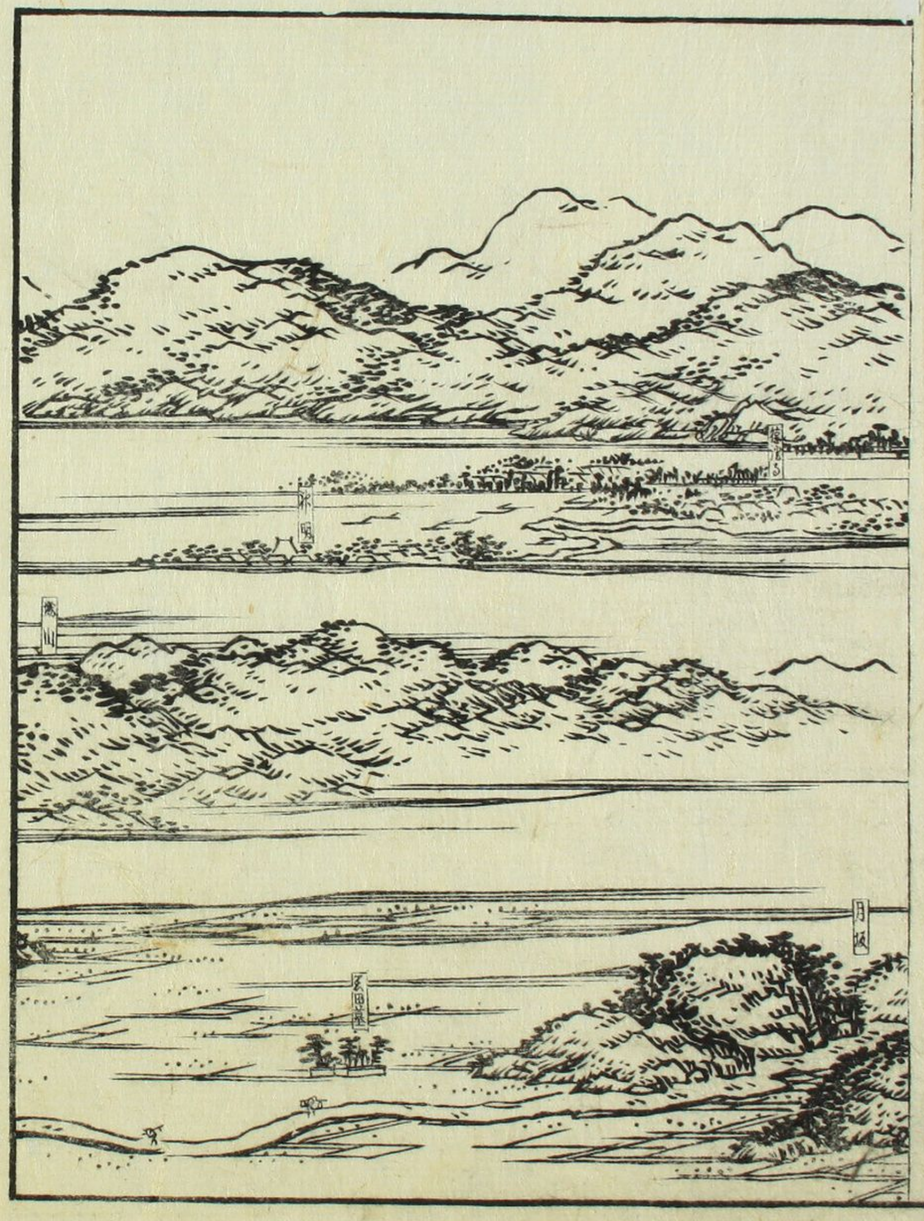
水上はあるくそ見ゆる市川はかのく波のたてはありけり　読人しらず

御霊社
国分寺の郷にあり　祭神　神功皇后　応神天皇　猿田彦　大歳神　小名彦
俗伝に此社は祇園社にして元来の名義は松本天神と号て当国九所の別宮也天正年中御霊社に合せ祭る○村中に国分寺の旧跡あり

道辻塚跡
今姫府惣社に古社神として祭られども今は此市の西にあり

今川了俊九州に往く紀行　路ゆきふりて云
そこより南にゆきたる茶屋の間にたちよりてかれこれ語らいし端にれども何ともみちにむかひけしき道にまよひされ何となく西へ入て行くに川の辺り近く石の塚一つ侍り是は神の坐し所なり出雲路の社の御前と云る物のかたちも一つ二つならずしと何ぞと問しかば此道をはじめて通る旅人は手もとにて是をまもりて石の塚をめぐりてのち男女の子をまつりのまつりをして通るとかやしかるにかたちいさなもさふらうものなりしかば持遠き所の海の中にたち給ひけるがかくもふまるびまへる度毎に御社のまへき


市川


月坂

なるとうんやめうなるなるべし

法えき〻神代のこゝれまくだひをうけ拾の流もしこ〻

此記文そたれるるゆいたゝ〻也中よいさゝう紀とたて川のかゝりと書うるこの川い今いの巳城下の町神谷えん[illegible]ゝ入るたゝうい主川の理巳城へとそ道辻のゆ

嶽飾摩よもあり係せるべし

姫路須城姫山よ古城えい村上帝第七乃皇子奥平親王十五世の苗裔

赤松橋磨守則村法名心二男統和守貞範法名貞世初め後破砌帝ゆ後

ひえ弘乃比嘗敏を姫山ゆ構へ〻宮ゆ居比是宮初のまえ厥后建武

の比より足利家ゆ属し一族小寺相模守教秀同代〻て尚城と守

護比教秀り〻長る小寺義兵衛尉景治同豊後守景重嘉吉元年

ゆ赤松満祐ゆ附法し本山城ゆ籠て武功と旋し紀ゆ討亡比この附

赤松家彫滅し尚國い山名宗全ゆ亡比るゆ應仁元年赤松政則

尚城を奪飯し迦宮ゆ移る文明元年毛塩山ゆ新城を築き足ゆ

移り此城を舊例ゆ任せ小寺修理守豊徹ゆ守らせ其子息加賀守

則徹い永正年中置塩乃幕下浦上が致逆ありて肥州の城ゆ籠るし

時則徹い討手を蒙り肥州ゆ発き合戦し欲陣の計略ゆ陥りて終り

討亡比嬬ゆ足濃守徹隆尚城護る次ゆ小寺官兵衛孝隆守護比天正

五年ゆ到て織田信長ゆ天下乃附尚國を秀吉ゆ嘱ゆ三木別所を

攻し て後此城ゆ移り給ひ日八年ゆ英賀城を隔し日九年ゆ毛利が

出城因州鳥取城と落しけ姫山ゆ三重の殿をと築後ゆ尚日十年六

月二日明智日向守光秀信長を弑比張之尚城い羽柴小市郎秀

長ゆ護しめ上洛ゆ〻光秀と滅し日十三年天下一統創業あり

秀吉長い和州ゆ移りて大和大納言ゆ任比尚城い本下肥後守家定

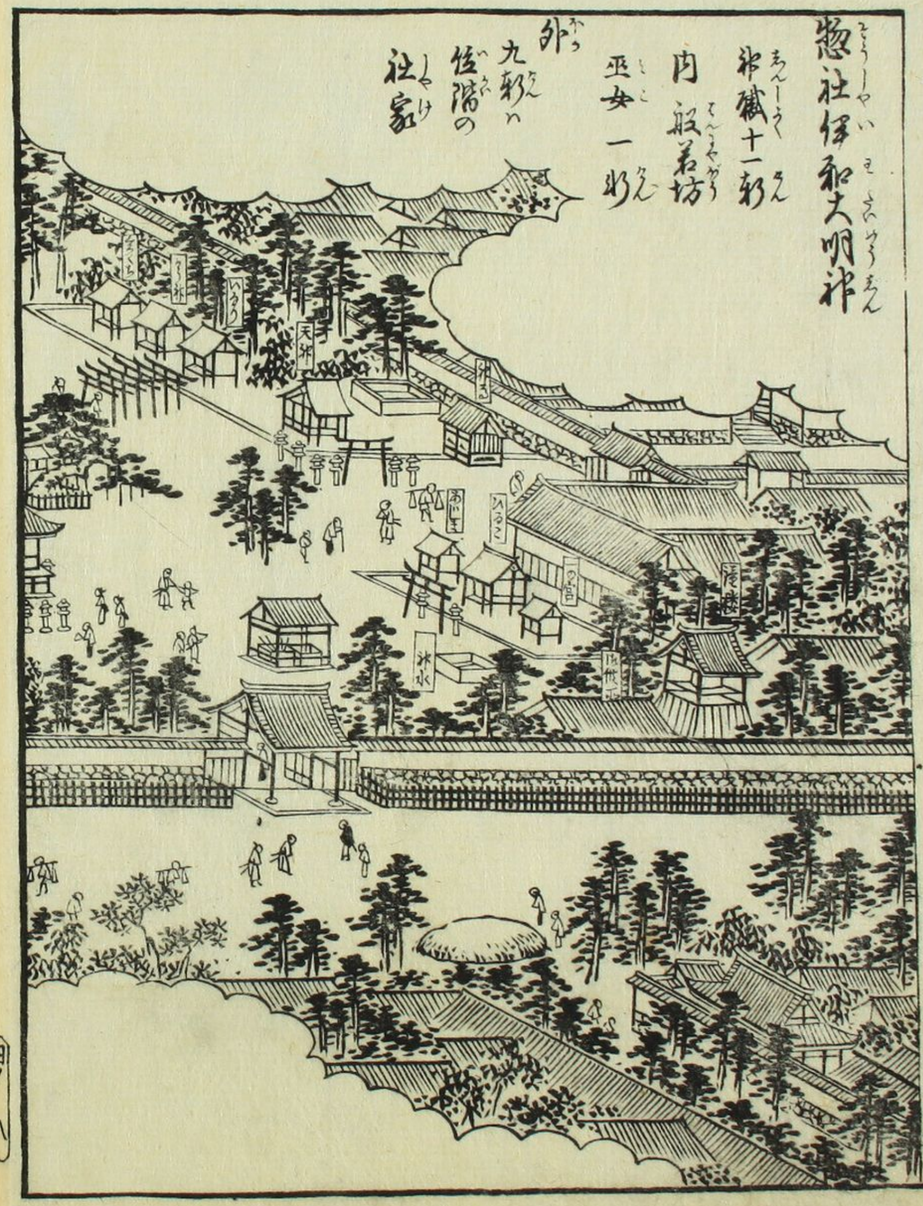
守しめ日右衛門佐勝忠城番ゆ為て秀吉ゆ比海を係定し

武威異國ゆ及し段姓豊臣と号し関白を歴〻て尚ゆ昇進給へ

依之日本乃諸侯領地と為比る慶長ゆ年ゆ池田ゆ和輝政ゆ尚

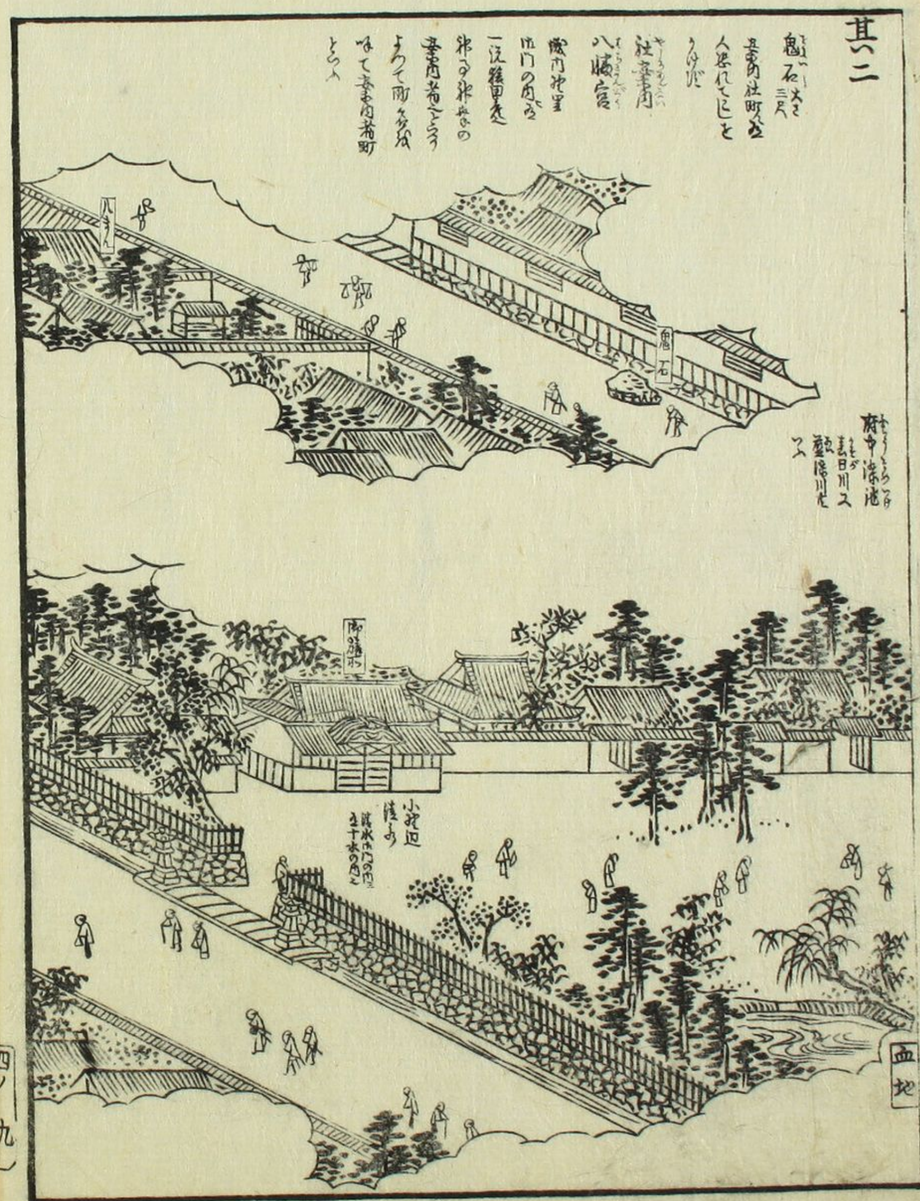
國と賜り播磨淡三州の太守ゆ（附印拾万石百万石給賜へ）姫山の城郭比三村ゆ不開

宿村中村國府寺村を〻輝政入府の後比三村と都て姫路と号比後姫路と


惣社伊和大明神
末社十一彩
内 般若坊
巫女一彩
外
九彩の
位階の
社家

惣末十六社

其の二



改て即崗城を再營して舊るくり封境慶長十三年始めて五重の天守を築き九ケ年ヶ年ヶ年にして竣功しくり城外七十八町を割拾し て東西三十六町五十間余南北三十間余東西橋本町西は龍地町六丁目南小世三町二十間余南は飾間澤門小路威德寺町と定め厚安代連綿の居城なりて市廛彩と赤べる民街を敷く 播磨古風記

姫山 今の城山の名あり姫路城の始めなり白國神社祭神國方姫いつへ姫命國府寺氏家譜曰糸紡帝の苗裔廣地大兵明雄が室を藏姫と号し又姫尾姫ともよべり霊を國府寺村一郷の祇祀として山上に祀る故に姫山の称名寺の佛國寺に嘗雑の富姫刑部の両社と祭りしの下の宮邊の社の殘存を惜く

總社伊和明神 姫路侍士町 祭神 伊和大神 社傳曰人皇二十七代淳仁帝天平寶字七年當國の一宮の祭神 大己貴命中殿九柱神 配祭 和社軍戦勝利を祈願せし時大己貴命水尾山に降臨ましまし 今城西楽山に鎮座

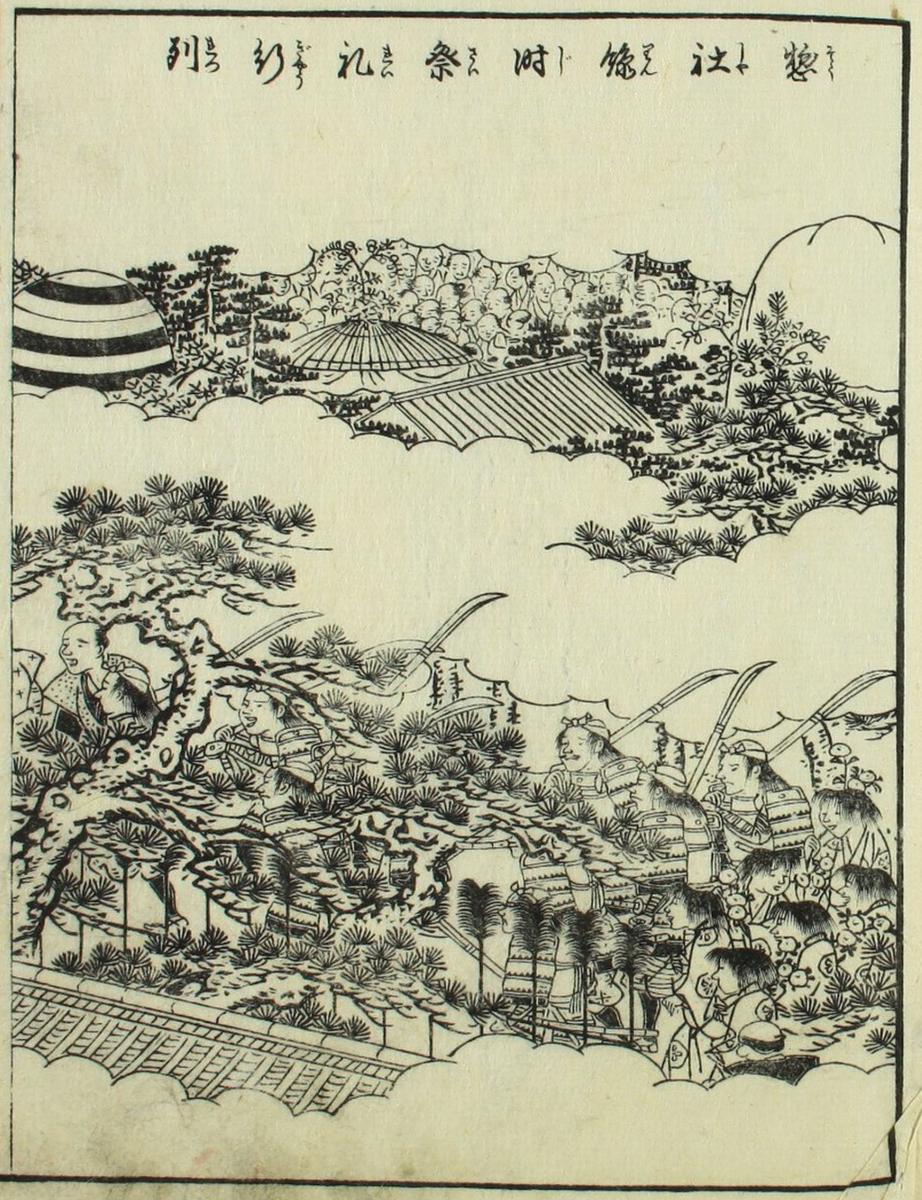
正暦二年六月朔日正一位を授けまつり同年神託ありて九所の霊神を併せ祀り郷本の地に遷座 今茶臼門内慶大造 其後寛和元年正月廿三日

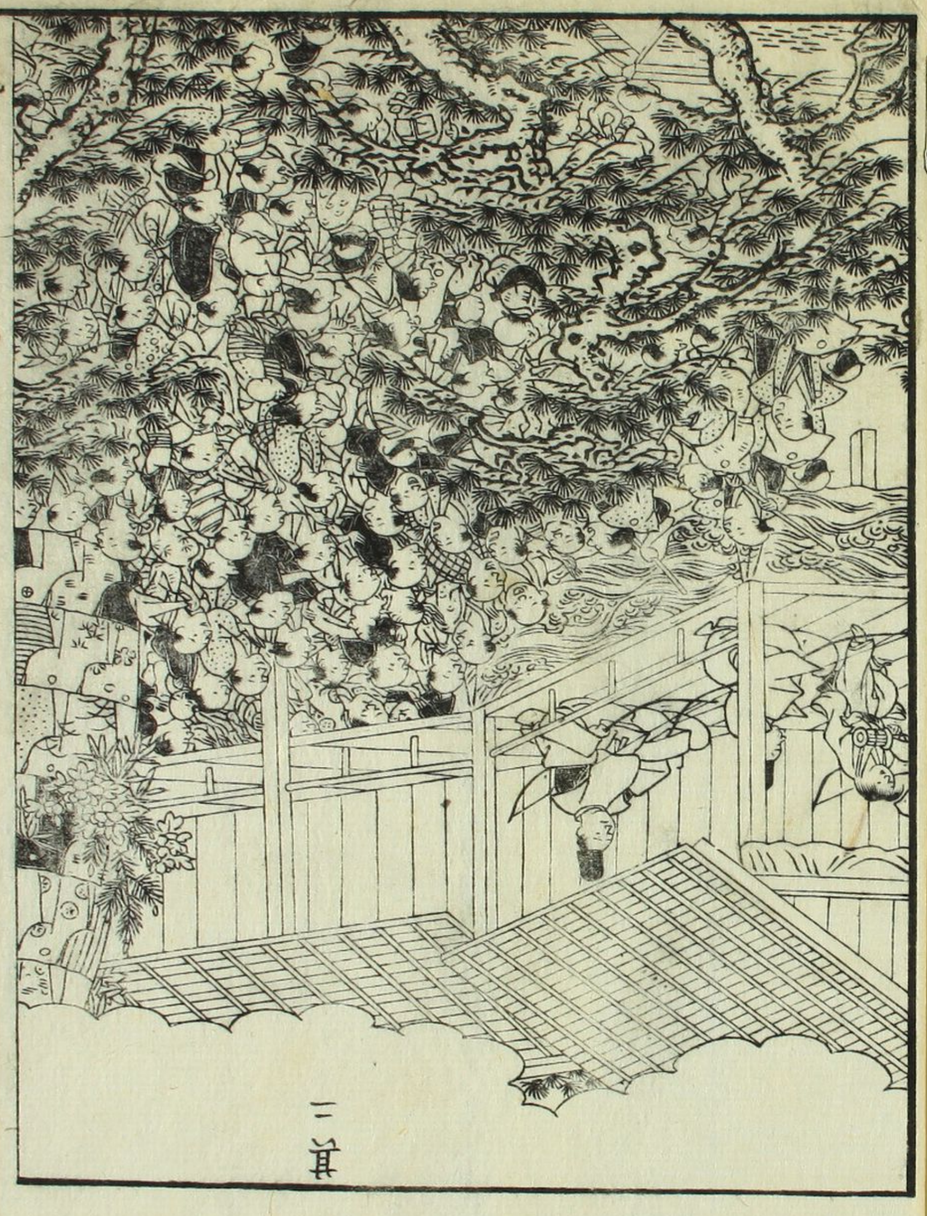
草之郷村楠兵衛神社（神名帳出）二座の内五十猛命と保科の二神一光の御
あり同年六月十一月末社と封〻同十一月十八日延喜式神名帳撰定
國五十座神（大七座小七十三座）を大己貴命左右に侍せ額の御日軍八阪正法惣
社伊和大明神と書し（軍八阪と号するは諸軍神の阪うる義と軍帥軍帥なるは
又伊和と号するは宍粟郡宍粟郡八つの郷の名をくゝ八百万神の阪うる也）
一宮の郡下り給えり　当社例祭は十一月十五日ゝて餘附祭は廿
一年因之宍粟郡白倉山高滑山華滑山の三山と象りて造り山を
拵へ綿を飾菱木の造り花と云為る嘗て菱基ありて猿楽三番
完これと勤る舊例あり是皆所〻なり出し例式之乞当社の大
祭にして嚴重なる事当國の法類也又七月十三日より十五日まで
神踊あり兵杖刀剣を振て軍旅威儀を如し信仰俗羅踊と云
又ホウデン踊ともいふ天平宝字八年異賊龍花寺の附属京貞國の軍
として追討〻凱陣の祝に社へ賽幣」是より恒例なり（近郷十二村より祝
歌を歌て参て歌）
又一説に池田輝政侯より始るともいふ延享元年六月十日より祭礼

あり其附の塚を松平義知侯の指揮なりとぞ
当社年中行事
△元日巳方祭　○元三盤若経　○七日七種御供又日かさしの枝祭り　○十八日御
粥　△三月三日曲水餘ゝ　△巳月朝日出拂　神座の扁額　笑の祭　△五月
五日氏人兵具飾て祭り物六ヶ寺の僧盤若法経并に国楽書写山の僧乞
を勤む　○田植菱八ヶの村民はとむ　如い菱を男は其茎摩ようつがをつくる
△六月晦日祓　茅の輪　△七月朝日壹ヶ所宮のあてもの
篇宴つゝまつの拵び　○十三日より十八日を盂蘭羅踊　△八月朝日餘紙　△九月
九日六根祭り　○中の美日餘ヶ祭三山の祭ヶ兼猿楽やぶさめ　△十月
中六日御霊祭　百燈　御祓くだり　△十二月十五日燻拂　○晦日鬼塚のヶ鬼
つゝ巳方祓　鬼石の御法
巳外餘附行ヶ　○天神地祇の祭ヶ　造山猿楽　○飾麿の御祓幸ヶの
○神稲うけ　○飾麿御湯　○雨祈　○大神楽　○水むすび　○居祭　巳外例日のヶ

逢松原（八雲御抄摂津国歌枕松原長門一宮撰定奥蘭怪当國歌枕松原長門一宮撰定
飾東郡宍粟郡惣社一名居世日在明日在明一名宍粟氏ヲノ松原
（堤西方）
まつま深根てのこそて　今秋ごすりぬあふの松ちり　耶重
右二ツの名不惣社の境内より東ちりを祭せりは名不くまあるべし

惣社祭礼の時





正一位刑部大明神 姫路城内 本丸鬼門 祭神二座深秘の神とし傳て八天堂と号し

池田輝政の霊神濃州刑部村大己貴命を宮に移し奉り別当

般若院神を馬場氏御供所長源寺

武日世佐山神を老狐とうひて妖怪をおゐて是を恐るゝ多くなれば

堪うり本草綱目に狐百歳にして化し人を惑

子年の老狐魅魅と云て人の眼に見えしと書しゐ習俗のいひ

つせを集解に実しつのくそ例を見るのいあしに何ぞ熟数のたぐひを敬

ひまぐるのたりんや

○刑部の廻式に刑部省とよ

ばれる所の神宮の中小力山石清水の社の二位に彩羅王の

山世佐の四女の口のくばれ物と輝政大守播州時後して宮に祀る

宮あれども芝居の下に

寛政七年の比

出るとゝ

皿屋敷

播州志の載る風説

皿屋敷

梅雨松

月図

日月祠 竹の門の外にあり今小堂にして

祭る天と称す昔人家に初れし

山祠高い道辺の祠のちかくにあり

まくだひをを〜〜伊勢諸伊勢冊の二神と日月の老二神の所なの日女月

清うて〜〜女鏡と菊の社地も壮んみ〜〜加吉の比い赤松備後の寺都も

みな社司山氏五門家重家慶奥女巫の郷の小宮なこと云とゝ

雄山 古名 長尾山 山の西にあり山の巫女の姉妹祭山の名あり

その間の細き川を妹背川と云とゝ八幡宮と祠る 神功皇后○

應神帝○玉依 三座 人皇七代孝霊天皇皇子若建尾命山山の麓

に甚る長尾男命の居所なれば

大歳社 日本 宗神 雅霊 霊命 天満宮 日本地田輝政 愛宕山 日所

宗神迦遇突智 十二所権現 日本 侍所 宗神 武名尊

慈恩寺 十二不の 本尊 観世音

義園長者宅地 二階町あり今の所人の 傾城淵 義園の前にあり昔の

姫路寺 鷺の姫とあり 居住とある中来本洋 淵の底 中郷洋 ゆ 拠野 山の麓村

姫路山源名寺と云本尊薬師如来

國府寺故家　姫路の町よりあり、今の國府寺氏なり。歷代此地より住して由附と云。三十代連綿として家系相續し、[illegible]家級三ツ唐人笠の比附よりて繁昌して三ツ唐人笠の比附織を賜ふ。右の明證なり。[illegible]代の國府寺右近支景家と名あり。國府の國勢と雖又の政不[illegible]も等しからず。姫路舊記よりとぞ。[illegible]世の人口に[illegible]

荻田故家　世屋村よりあり。又郎右衛門　古書の卷の墨筆攝磨鑑とあるものの今も此家に伝へて御[illegible]

明石手鑑　[illegible]右衛門の[illegible]物雜品　相續て三百余年[illegible]

又[illegible]小太工五郎右衛門と記せり。家に古記古書甚多し。右秀吉

乙郡附よりの内古墨あり

底

主人[illegible]
[illegible]
ふくさ二寸[illegible]
此家國中に[illegible]
て相傳所渡[illegible]也
天正十八年正月日

○和漢
久門
半光
尤押

[illegible]
攝州[illegible]

量中
焙印

播磨鑑　職人考合　名工[illegible]人の秋乃うちより攝州鑑ふてびみる月とるる

紅場德寺寺　姫府西の外町よりあり紅場寺[illegible]寺のうけ[illegible]　寺号阿弥陀如来親鸞上人乃

画像七高僧聖德太子の御親と安置し元和三年教如上人開基之

心光寺　寺町よりあり。黒田泉紅善拙[illegible]

國府渡　白毛川乃下宮村の東之白毛川い今の橋の町より下流る人家の入口とは今の[illegible]町なりこれ古渡なりて今いる[illegible]

家集　なりまのうらふまやぐうう村名ぎすうりび

誰とうはふまうるる渡名の[illegible]のまつ[illegible]ひ[illegible]ぐ　忠見

春日明神　毎日の祭芝系よりあり例祭七月廿七日ハ素麻浦海中多年後神幸あり紅三月十又日八板の御[illegible]又幸に[illegible]附競馬あり六月九日十又日八神幸の踊[illegible]馬場うて義の花を造りいざして踊る十又日い彩[illegible]流鏑馬[illegible]ぐ今い[illegible]

三左衛門渠　小家村より南へ二百間余中二十に又間の大池へ両堤松樹あり池田三左衛門乃一[illegible]

齒神　三左衛門堤の西よりあり[illegible]三左衛門乃墓あり羽柴塚とる

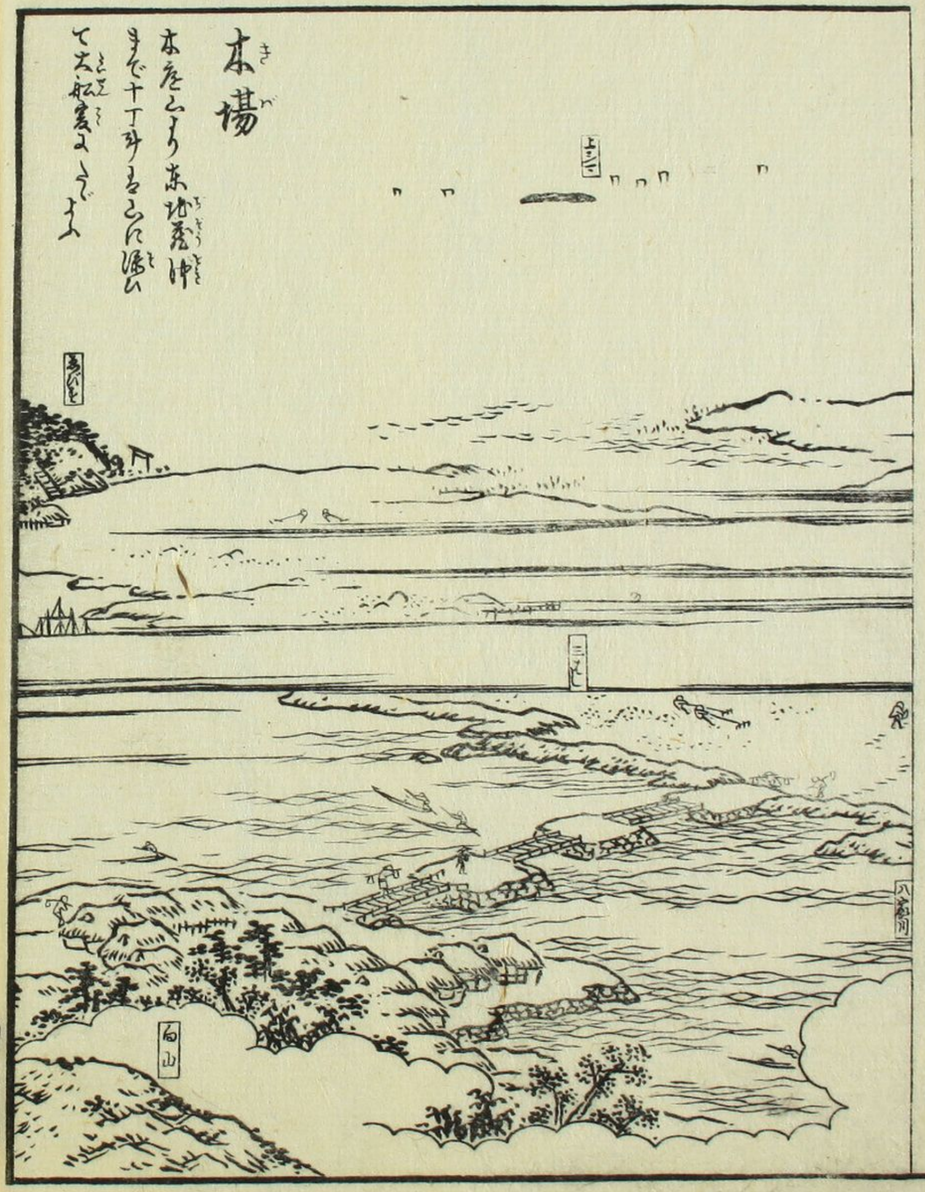
雲見川　今福中村小の間タツの町六丁目[illegible]乃うちより西　雲見橋　長[illegible]の間よ[illegible]　彩文明神　文[illegible]村[illegible]

濱

本屋　的形のうち印南郡[illegible]乃[illegible]ありて比浦をゴゼカニヘとうへ　少し海よ入てこふありそしまり東へ[illegible]

姫の御家山あり又東小又[illegible]離れて[illegible]山[illegible]こふみ本屋山三三丁西

[illegible]て小き[illegible]遊業[illegible]ぐ武乃社あり足[illegible]場の神[illegible]慶長年中


本場
本屋ムラより本地蔵堂
まで十丁ヤ五ケ浦
て大松原なり
上ミヤ
三ヤ
八幡川
白山

原発社
雲祥山

又怪濱と開く附多く怪地なり本庄の北南隣つゝいの巡礼の姫の住
山の中にいろ〳〵の岩あり又若い材木乃出つゝ永享の年鄭慶光明寺
建立乃材木を福田迄の集む所と本場なり〇八幡川とその小き流を繋き
て橋と渡〳〵て二ツ橋と云室津なるゆとべて渡通りの往来の咽喉なり
家集 きゝ山氏ゝ家の西のちりゝまき後され泡乃鶴ゝ山やゝいゝ公さてされば

をゝ中〳〵せゝ流の雨いろ〳〵しぐもきりはとまりぬるのゆぞ乃り久乃　後拾

按ずゝ永享の年と後教の射くすやぐ流るいぐ本庄の名考へあるべし

本庭明神　社地の西長徳神社なり　元和元年本庄同姓の長若三郎久右衛門宗棠
八重松原の別宮なり　別原小三郎　遠藤の男　遠藤景氏後嗣の後宗棠に代の孫奥泰改造附又寛保元年之尚社
記又委〳〵側和九月十又日雷月宮い妻泰ゝ所と様ぐ教の名の之六月廿九日御祭あり

東山稲荷　東山村にあり東神又社任野後菊姫　○宇佐崎恵美酒神
倉稲魂十後神　社司　白矢氏

會松原恵乃濱　松原村にあり宇佐神若根尾上のごとし
恵の濱の家本伴若別府乃馬久後ゝ乃宮方親王ゝの義後あり
恵の濱八幡宮　社地基度〳〵一名　若い正月十又月競馬あり　出國の刺史例として
松原乃別宮ゝ　別當松原山八正寺憲仁の比の長史ゝ乃ゝ
絶ゝ乃後て又絶ゝ乃今又絶ゝ
永福年中建立其後天正二年當寺霊山坊再建年中ゝ乃月ゝ正月十日村郷
正月廿日三大神相殿十又日神祥二月初月より七日乃ゝ名會ゝ乃ゝ
名形の若宮殿又ゝ八月若宮放生會寺安多ゝ古刀濱織天

皇の御寄附三条小振治の宮祇一振　虎の皮乃古敷　図心考附　社領六坊　宮司末孫
正人八正寺の縁起ゝ書ゝて二百年余のもの之　懐国様多ゝ
大蔵乃初ゝ乃天平年中乃勅造

麻生山　三世の宮奥山村の上又ゝあり　岩切宮石の板ゝ又嘴ゝ　出國の高山ゝて播磨の小家士〳〵ゝ
若麻多ゝ生生〳〵ゝ山ゝ山阪ゝ地を推規と後ゝ若相殿ゝ和ゝ
足兼應年中明星滝ゝ〳〵後若の達ゝ石又ゝ若堂のゝ屈曲の
岩ゝ乃其中ゝ清水ゝ乃旱天ゝ涸ゝ乃ゝ又山ゝ乃極雨松ゝ　焼滝の
麻生神社　大已貴命の孫と志邑　ゝ乃ゝ　ゝ神功の後ゝ乃ゝ麻
大蔵　山中ゝ影向石御庵石女夫石千滿塚狐石名舊華嚴寺ゝ
寺ゝて聖武帝勅願良弟僧正の開基ゝ今後後明星滝寺護ゝ
懸田年　兼田村にあり　水足ゝ流れ神田ゝ乃ゝ　兼田神田
糸櫃　櫃下山と切ゝ　櫃下山ゝ切ゝ　兼田乃ゝ
八重鉾山　山ゝき村ゝ乃ゝ　山ゝき村ゝ乃ゝ
之後ゝ乃ゝ乃名ゝ乃ゝ　麻生ゝ山の辺ゝ神功皇后宮ゝ鉾を
烟の潔ゝ

松原八幡
八幡山
宇佐山
宇佐浦

人もれぬ
ものと
もりぬるとば
尚うらめしき
恋の深草
知の示も
尚あふすと
たのもくや
こひの松原
もげて
もろく
鈴河

大日本社　明田村にあり　此辺橋彩〜

○新羅明神社　明田村にあり　吳國の皇子と

妻屋　兼田村のうちあり　住侍〜此村号は自丹の三屋出る〜妻屋は此地に止り丹屋は

家侍〜まううて止る故に妻屋丹屋と号とうり

或曰丹屋妻屋の家信ぜべうぜべ九國号村号は其の家屋の家乃付物医

古代日本の文字拙いうる伝名書すて字書をうるのうれば屋乃字

を書考し〜て強て屋の故りとは定めがたし若此村号より此辺の名を試

みいりで妻屋屋間英屋とうべて屋間い中にあれい間とうい英い書ヲ

通とれば色男屋ともいべきや尚考へ医近に黄屋とうへもありたへ

み黄い屋間英屋ともみ國府へとは月久乃

國府山古城　三社妻屋村にあり　妻屋孫三郎貞祐　初い長宗と号ば　の居城へ元来此人い九

州の産へ若冠より大力者にあり て甚上輪略と時に兵衛を振絲〜

て百万の勢を指麾とる中に常中にあり元弘の比武者修行とし て

海内を巡り赤松乃幕下に屬〜九牙の呂とあり文和の戦ひに数度

の軍功を旋〜或い欲兵と揮へ〜磔とし又い大本と拔て欲軍を討

戦〜勇威英雄比類なし 此の人人中の虎とぞ呼に名を美より年累

て天正八年乃比い小寺官兵衛の居城とある此人い字長源氏乃後

裔黒田刑官侍者守高満が末孫下野守重隆当國多可郡に止住し

婿男官兵衛尉い姫路の城を築濃守徹隆の養子とあり姫路城

天正五年羽柴秀吉公当國に入給ひ此時播東に陣して五二の懇志を

選び名る其後別而長治と國戦も小寺官兵衛い三木城の要内者と

〜忠貞数ケ度みぶる長治戦て後秀吉公三木城に移りぬ小寺曰

此地要害堅固の名城とはやせども山嶽累りて偏僻の地に又姫

山城い小い重山巍〜と南に海あり 私の自中兵粮の運送心の便へ

是に師の居所に秀吉公こしに諸〜て姫城に移り後小寺い此國府

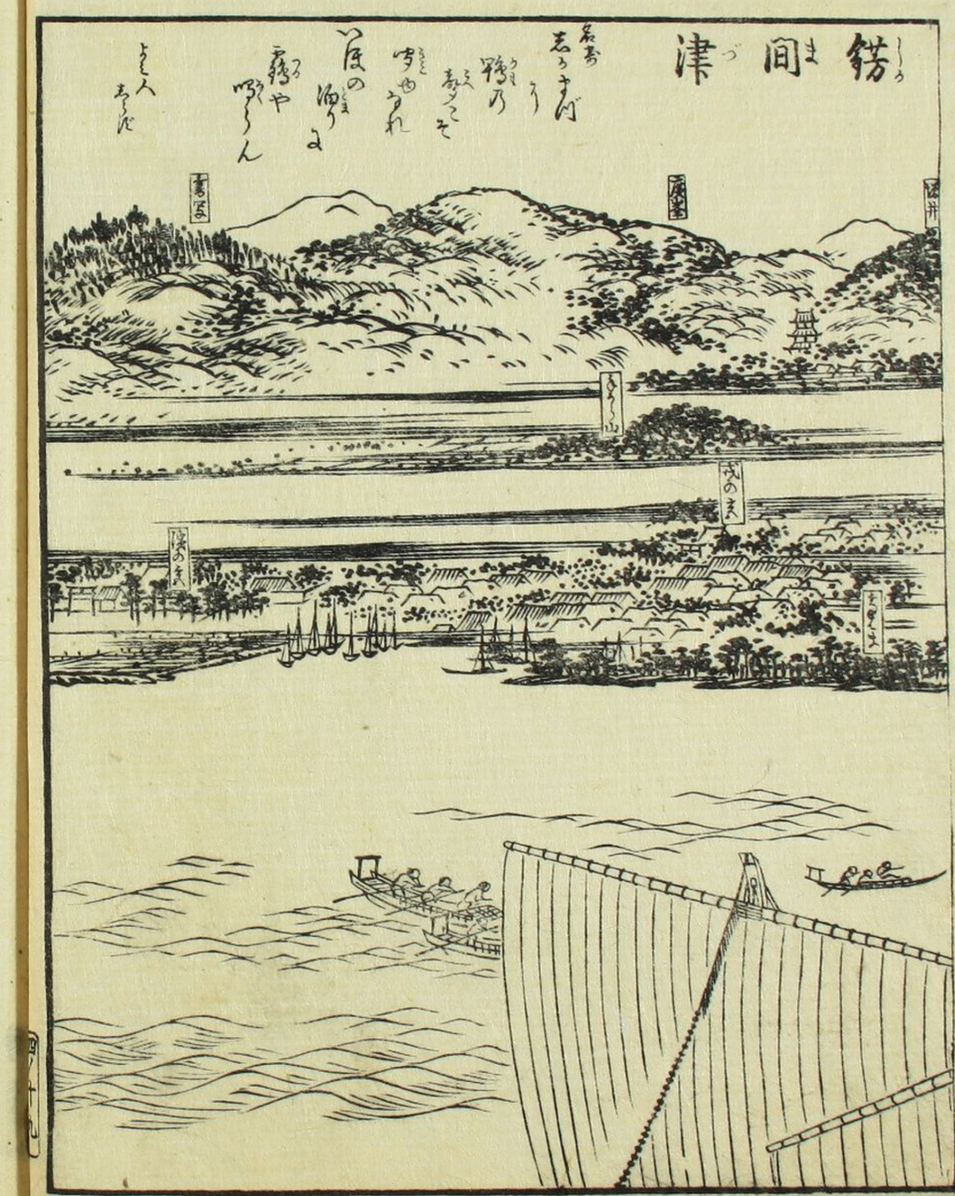
山に居所構へ数度の勲功を旋し（加〜終要乃恪い洋〜〜）

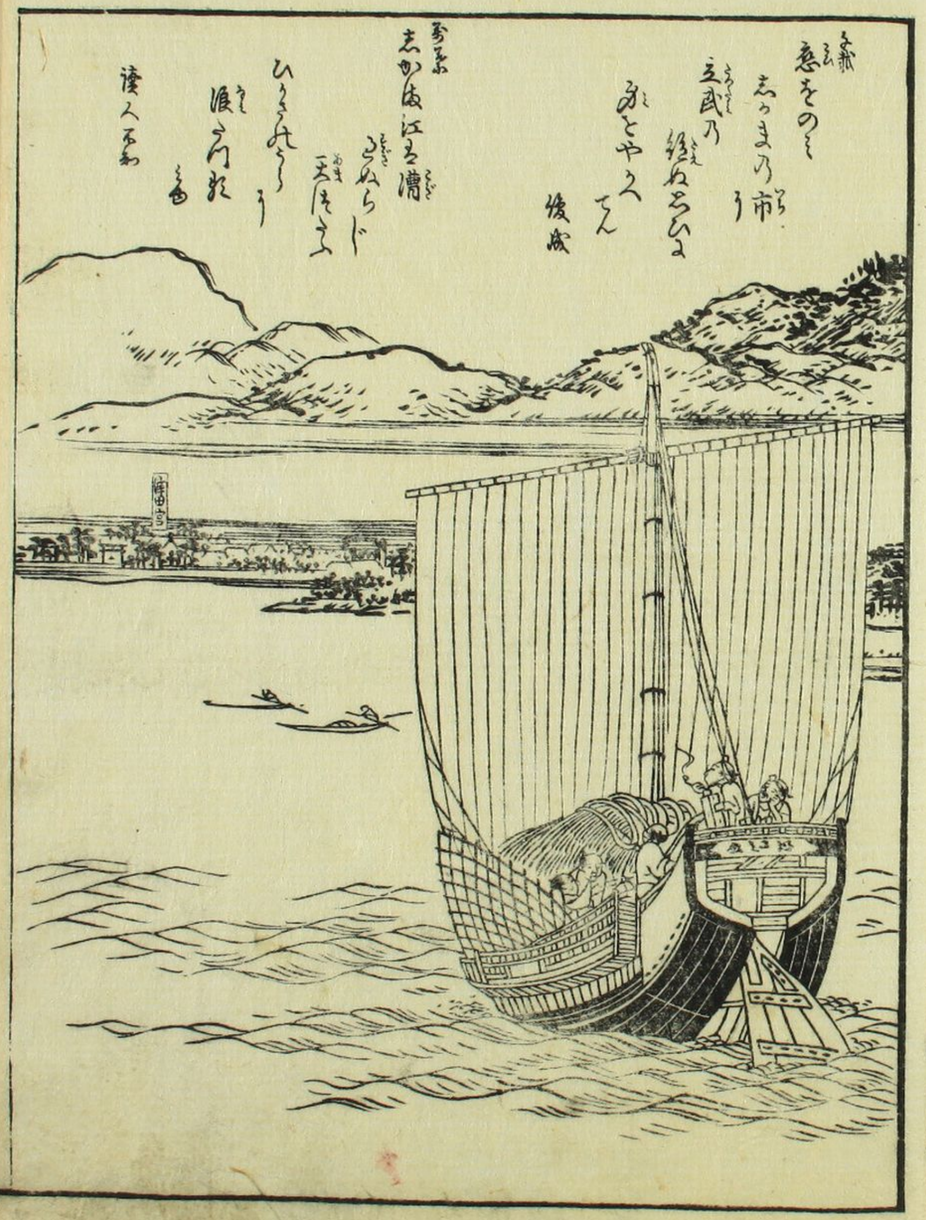
黒田氏墓　國府山の麓にあり小寺英濃守徹隆乃石塔

妻屋川渡　市川の下流に　速川河　川西阿城村にあり

祭祀大己貴命

飾磨津　飾磨市　古書に飾磨　古人乃湊にて古歌によりて名者の飾磨


鍬間津



とつへば飾磨一郡のこと也其内湊船付などには事も多くて名の殊なる事多し
上の妻鹿の宮にいたりて古へは妻鹿英賀と称をわかちける事度々見えたれど
後世車用繁くなりて八月晦日を限りてなどからつくれば其例多し今も
通船多く出入し交易農工商を始め漁舟も多く奥市は一日に二度あり
問屋などは小果世の家多し飾磨の市は清少納言枕草紙八雲御抄にも見え
へて菊店並べ立て貨るとて日本紀弘計王條歌に旨酒餌香
市に直もて買はぬとかれて实は云（餌香今の英賀なり）又日本私紀に曰高麗人餌香の市に来て
旨酒醸し餅の人競ひて売こ價とんでけれといふもありと云 英賀日記に
市場とはいまし古への名の残りけるん英賀妻鹿同古人の二名不ると知るべし

飾磨川

古への大川之今は浅し今雲見川といひて通船の為は後世に掘るなるべし 市川なりともいへり市あれば市川と名づく

新古 まくら海の海に出づるしかま川の絶えん日にこそ我恋やまめ　よみ人しらず

飾磨搗染

当津細江町に紺屋多くして其中には古代より相続の者も あれども染法今精く伝へる家なし 按るに呉いく度も藍に染めて
臼にて搗く唯厚く染るなるべし 臼にて搗とかけりといへ餅と搗飯とも云ふ
ぞて知る所なし 濃き藍染の事歌にて知るべし

羽衣 我恋はあひそめてこそまさりけれしかまのかちの色ならねども　通経

新続古 たのまじよしかまの市の色とよあひそめてこそ深くなれ　後成

新六 あり海のしかまに作る藍畠いろあるからの濃染せんとは　信実

天満宮

浜の天神といふ飾磨津にあり近世此海にて漁師網の頭と得て此祠に納めし今になほ楼門大鳥居あり

飾磨寺遺蹟

今小堂あり薬師を安置す俗にみとしの薬師といふ市中より一丁斗北に○峯相記に飾万郡津の村に寺跡あり延長山飾万薬師寺

清水

薬師の傍にあり十水の外なりされどもみなは国中第一之近世縁辺に居住の者ど繕構す 紫菱乾し古跡あり○古鏡あり

天満宮

英村にありむかしは戎を祭りし今は天満を祭る 先奥社の神之境内川をこゝろよ

御幸橋

御幸町雲見川の下に架る古橋之昔御幸の頃之といへり 白川法皇とも花山院とも定かならず

道辻祠

市中より小祠鎮座す 今幸の神といふ 此祠の事はひめぢ志染道辻祠に源貞世の文に
いへるごとく昔は社も大きくて年の暮には男女陰形の供物と備へて里民
の男女気比に男は白くもの此拝殿に打ちこもり入て戸を閉ぢて縁と引けるを
又宮守ら竹の杖をもて打ひし其杖をもて妻妾を摂りし腰とおして安産
の呪とし尚さるからにてぞ曲鞠などにて振ひて今はとだえ絶たり

孫三餅

市中にありて今にいたる昔候家の奴僕ども此餅屋にて喧嘩せしところ

もとよりもいくさまさりし津の国かれば志かまれかちん合せしてもみよ　よみ人しらず　或は細川幽斎

津田細江 津田と細江との間の川を是郡界之元い一名比と後世まうちて二村の名と
以渡の転訛なるべし昔い川ゆえ舟をつくしを通くし船のみ往来せしるゆえは考ふ
後古 ちとくもちとくり近江ゆ日名ありいづれとう是非とそうぞ

風吹い波やえんと結ぶ小津田の細江ゆ浦うれ哀　赤人
後撰集 又月雨い津田の細江のそつくしゆ人ぬも深きもるしえ哉　元興法師

津田穂蓼 津田の宮の北二丁斗ゆあり夏三伏も生ぜ枯ゆ三伏蓼くもゆ云仁治二年七月始
めて書写山勅使ゆ参詣ゆ蓼ぞ生ぜ枯ゆ三伏蓼くもゆ云仁治二年七月始

宅倉村 亀山の中ゆあり推古帝十又年無國ゆ宅倉を建ゆ日本紀ゆ日久ぐり生神祇と
記ゆ神ゆを定めて神祇の祭祀し不之宮食の祭之社村を名付のこせり
参考ゆ

ことひうしのこ年けの酒ゆさしむ久藤波の陰ゆさふねりの下略

(山) 北山より廣峯の
ふりえゆる

若一皇子権現 表日村ゆあり　**長谷山観音** 八幸畑村ゆあり先
國ゆ寺の奥院ゆ

銅山古坑 八幸畑村ゆ中ゆあり始り年暦未詳後ゆ本田英法寺　**豊國** 聖徳ゆ
の北附ゆ樂器して又終ゆ　祭國と云
希ゆ法ゆ　紀地ゆ　村号ゆ

星田苔清水 広村の中ゆ十あの其一ツゆて星田ゆ名
水密ゆて夏日ゆも下流ゆ奥ゆ

広山塚跡 国心ゆ三男藤若寺奥能ゆ息孫能　赤松貞村　山名宗全の居原伊記郎
小寺加賀守　山服左衛門　名護屋ゆ

白國大明神 國衙広白國村ゆあり　**糸神** 國方姫命　**宮國** 記ゆ宮と称ぶ　**德産** 年歴止

洋ゆ云ぶ　延喜式神名帳白國神社　○峯相記曰ゆ宮白國大明神い日城用廟
ゆ云ゆ糸神美法ゆ

ゆ蓋跡 之ゆ伝人皆ゆ云ぶ或説ゆ用化天皇第一の姫宮と云い或
加義大明神の餘流ゆ也ゆ鳥羽院ゆ御宇ゆ妥瀬川ゆ御幸あり

石室 廣峯禁葉白國村ゆあり源さ八間巾ゆ又石の家ゆ
長一間半巾ゆ又ぞう是古人の石櫃ゆ村の一名磨櫃谷と云

高松寺 白國村ゆあり　**芝言宗寺** 号る聖観音後堀城院ゆ御宇ゆ宮村の護白
國弾正左衛門ゆ敬ゆて寄附物多し

長苔五葉 白國村の田中小さき森ゆあり　**人見塚** 日本にあり　**大歳祠** 白國村ゆあり糸神
て除地ゆ中ゆ塚洋ゆ云ぶ　雅楽神　雲神

亀井寺跡 日村ゆあり山陰中納言　**老僧岩** 一名弁慶岩　境の極楽念佛
亀井ゆ寺ゆ　亀ゆ井ゆあり　寺の下ゆあり形とれて居く

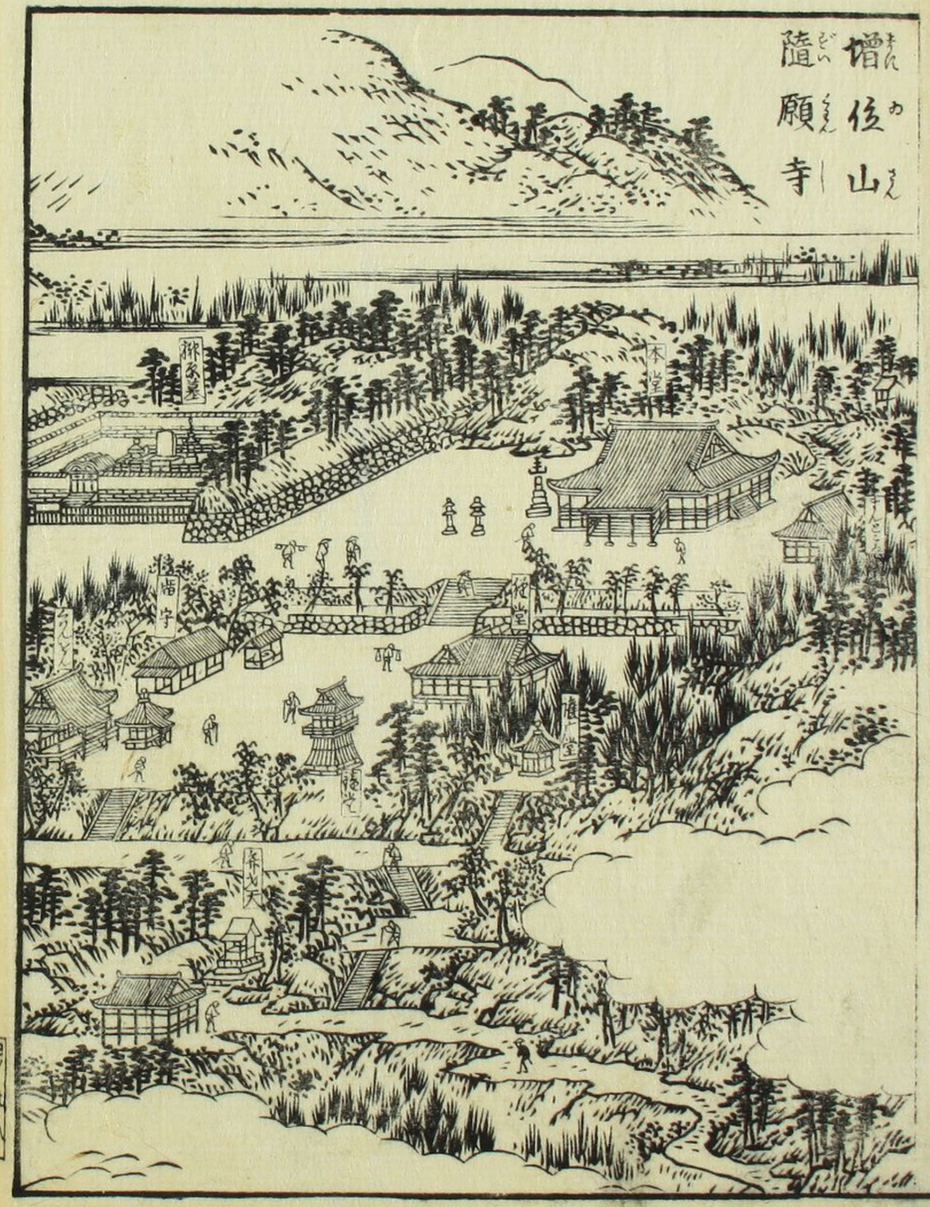
古子堂 日不念佛寺の上ゆあり古子ゆ古絵ゆ云ゆ谷ゆ云ゆ先と芭蕉云ゆの
風蘿堂ゆ　義塚の傍ゆあり　**浩東園** 清風蘿坊と云ゆ遷ゆて住ゆ云ゆ蕉の遺跡
風蘿堂ゆ云と素風蘿坊と云ゆ

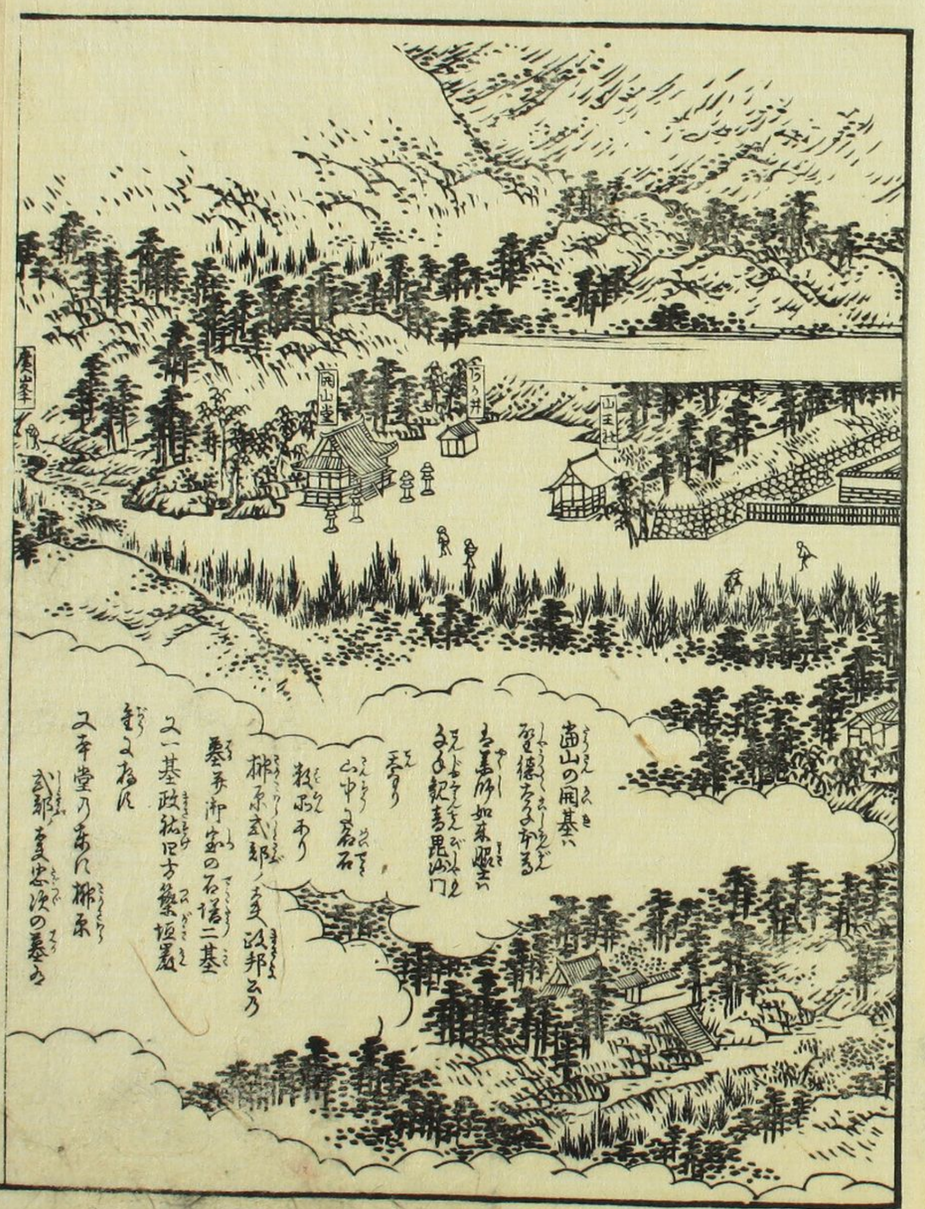
云ぶ尉ゆ芭蕉 蕉ゆ本像左右惟然ゆ山ゆ画影ゆあり其外蕉ゆ旅
具ゆ蓑 菅笠本絵　笠 反古法濃引細捻緒　杖 三尺五寸斗　袈裟 一名濃土袈裟ゆ云ゆ　紙硯 紙硯箱ゆ十二

硯長さ二寸三厘 巾弐寸三分 紙嚢 麻生本絹 抑風蘿堂は博信天石山乃麓にて奉慶石より百歩ばかり上方なる谷にあり其側をながれ花板森とゝて種乃奉幽みきえ本草義ヲ洞水に方ヲ流を張い廣岸の社改書写山乃山寺遠り花ヶ丘は橘廣宗飾廣宗師浦沖の中川ゝうけ島渡海島根い本の向くゝ乃ゝ花ヲ市川右ヲ妹桑川磯ヶ丘客乃西国と淋しゝ谷ヶ乃しゝも此一室ヲ俄結りて長安名利の塵と離るゝ

芭蕉翁笠養塚 博信ヲの藩 芭蕉翁ハ伊州の産ヲて上野義堂氏ヲ仕へて松尾甚七郎と号し壮年乃頃宦を辞して江府深川芭蕉庵ヲ止住し名を桃青と改め寿俳諧正風体を弘て世ヲ唱る元禄二年弥生の末奥羽と紀御し加賀国ヲ入北枝ゞりゝふ旅藤して越前の方へゝ向る附縁別ヲ菅笠養ヲ已ゞ数句と添て翁ヲ貽る

卯辰集 白露もまゞ乃ゝ笠養乃紀清ゝ郎 北枝


増位山
隨願寺


岡山堂
ちう井
山王社
南山の囲碁は
聖徳なるよかるる
碁所如来碁
ゑゑ記者鬼山門
碁石
碁所あり
桃原玄郎
碁秀御安の石譜二碁
又一碁政秘伝古墨垣墨
又本堂の南に桃原
玄郎碁忠次の墓

そまとり山蓑を着て大和路を巡り須磨明石を遍歴し近江の石山の遠望する幻住庵の幽棲し武い叡嶽の探奇する金福寺のたせ残庵の竈を浩湯白山通円菱庵の月を待し又園橋風蘿坊の居を構へし山蓑旅の調度いかる居人惟拙の遺りて元禄七年十月十二日雅波のまうぬ其後惟然坊朝夕の庄屋もの蔵の和漢を床奥を打ちしして宴の閑居し蔵の乃彩造物のどい攝磨の千山へ附属しぬ千山是を携へて姫府の帰る山蓑と祇と塚と築き碑と造立し委しくは丹頂者の雪拯集の見へすり中央芭蕉翁庵庵惟然右千山るさ三尺基石二尺の碑石り鐫と姫府侯の敬るを称る其碑銘曰

又傍の

とせ秋の柔やはらかに屋もつくも名を蒙世

今茲己巳之秋我侯新入城府聞政之暇迴駕于此
増位山隨観風物偶溪邊探蕉叟之遺趾而裁俳諧
濟替者流寒瓜傳聞其事仰望德燼景慕風彩竊冀
奉其雅章以置於不朽武備可之遂叙其由以貽
永年云　寛延己巳九月中澣

所名

増位山隨願寺醫王院

白國村そくの方
ふり天台宗

寺傳曰　ちよ自像を巖に彫しゑ今の右の岩これなり其後聖武帝天平七年
像正行基林森の出多村に帝し附業師の示現を蒙り即勅廷に奏し梵宮
を彫に建て自業師如来日光月光十二神の像を刻て安置し今の本尊也
なり又我胸像を彫中央胸に収し附法相宗へ入し
行基の源流法勢法師博識みして法相の奥を究め又止観の扉に入て
智嶽義益の後学なり其後仁明帝の勅を受て大乗法相を草に名宗
とせり増位山随願寺醫王院の勅号を賜へ山附法燈嶽に封境廣大
伽藍山麓に立ち後名水院古御門の両帝祈願する崇篤にして最勝講を
修行する星霜ふりて天正年中別所長治の兵火に罹り堂舎殿燼と
衆僧僅に本尊二服士十二神ねび及び行基の像と奉して姫路の西嵐山
に遷る今醫王山月十三年秀吉の新ひ寺院を四地に繁盛し今乃ぶく
清堂寺院と建立し光り番烟に方に蓋し舊に復し

有明峯

南山東の峯陵内
峯に宝吉神宮を祀

安藝法印寺跡

有明の寺の跡
三木城落城の後と敵の秀吉の軍利を得ぬ

孫高峯

増位山の小一里斗にあり行基菩の建立れと奥院とも
私家の墓にこれを載に摩崖飾本尊とし

細石のいとをとるしい攝磨する孫高乃峯いやるるとする　元補

廣峯牛頭天王社 牛田村上方にあり 本地佛より 崇つきたれば頂上にあり 素神素盞烏尊 天照神 御兄弟

三大神八王子 摂社に白幣社 吉備云 軍殿 大己貴命 地養河 薬民 拾来 天社

又祇園王所冠者殿九部の神 完名之齋社の御殿 聖武帝天

平五年三月十八日吉備云 帰朝の時此地に於て素盞烏尊乃神

詫を蒙り京師に還て上奏し勅をなんく円六年に神社と造宮

に其後園融院天禄三年西峯より廣峯に遷る 厩后貞観

十一年山城国に遷る 洛東祇園 ○三代実録十三 貞観八年七月十三日

授播磨国正位速素盞烏神後五位下 ○峯相記 洛の祇園遷

そとつり 九部の神完名神社の後に あり 数カツ完の上に武干の絵とかきそう 先いろの用えのものの甚考之人くこれと辨し完名数殘を数に

廣峯古城 大津 広廣峯 に遺蹟あり 城主 廣峯大別当昌俊之嗣祖 天津彦命

の苗裔 にして廣峯周囲よりの神威之常に武勇を励し兵術を好

で建武の乱に吳利に属し京合戦に数度の勲功を旋し 将軍家の感

状を賜り剣へ廣峯應威を蒙り家門繁栄して内に社擅に於

て国家治平武運長久を祈願を外に社御を業として軍法に陣に雅

心を凝し其上社勢威と兼帯に国益一山の社人兵器を探り闘戦

の勢ひを増し文明の比赤松が西播磨と競争に附祈禱有り天文

永禄の比中国大乱に赤松が一族も国郡を争い神西永良城合戦

に廣峯新に即西坂乃僧侶に那り永良城を守る新に即武功に依

て歌を退け赤松家の感状を賜る今に傳来せり

白幣山 廣峯のうしろにあり 神社 平野寺 牛田村にあり 古へ赤松院西院あり 赤松院に元明帝の御祈願所 武帝の御祈願之西院に願後して建のこ遺るり

甲山神社 延喜村にあり 式内神八幡神明 赤田家造営 100石 栗 ○

亀山寺 亀山村にあり 西本願寺流 寺 此百三十九石余 開基親鸞聖人より第

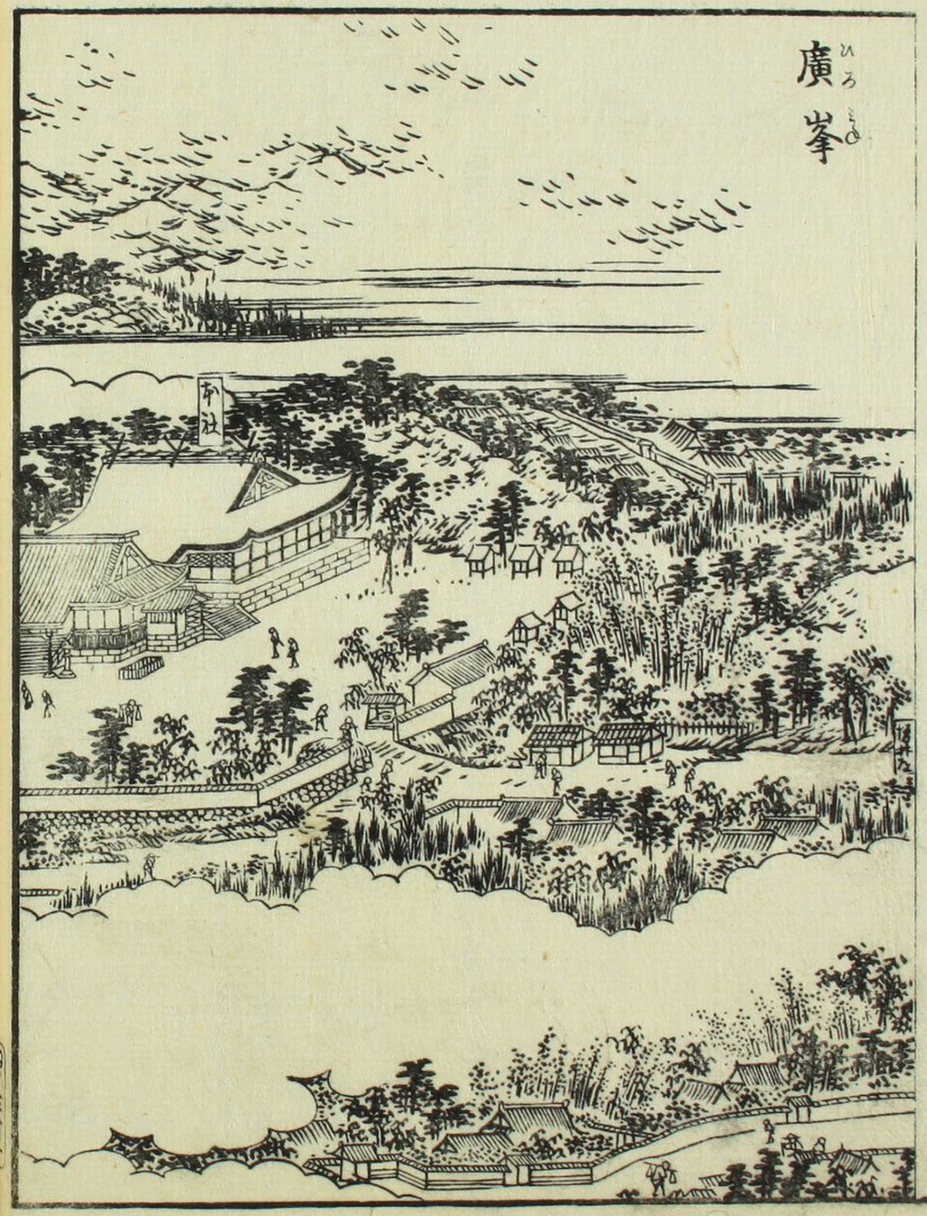
八代蓮如上人之實玄上人を以て住職 上人の名号 九代実如 尤の寺 に於て寺建立

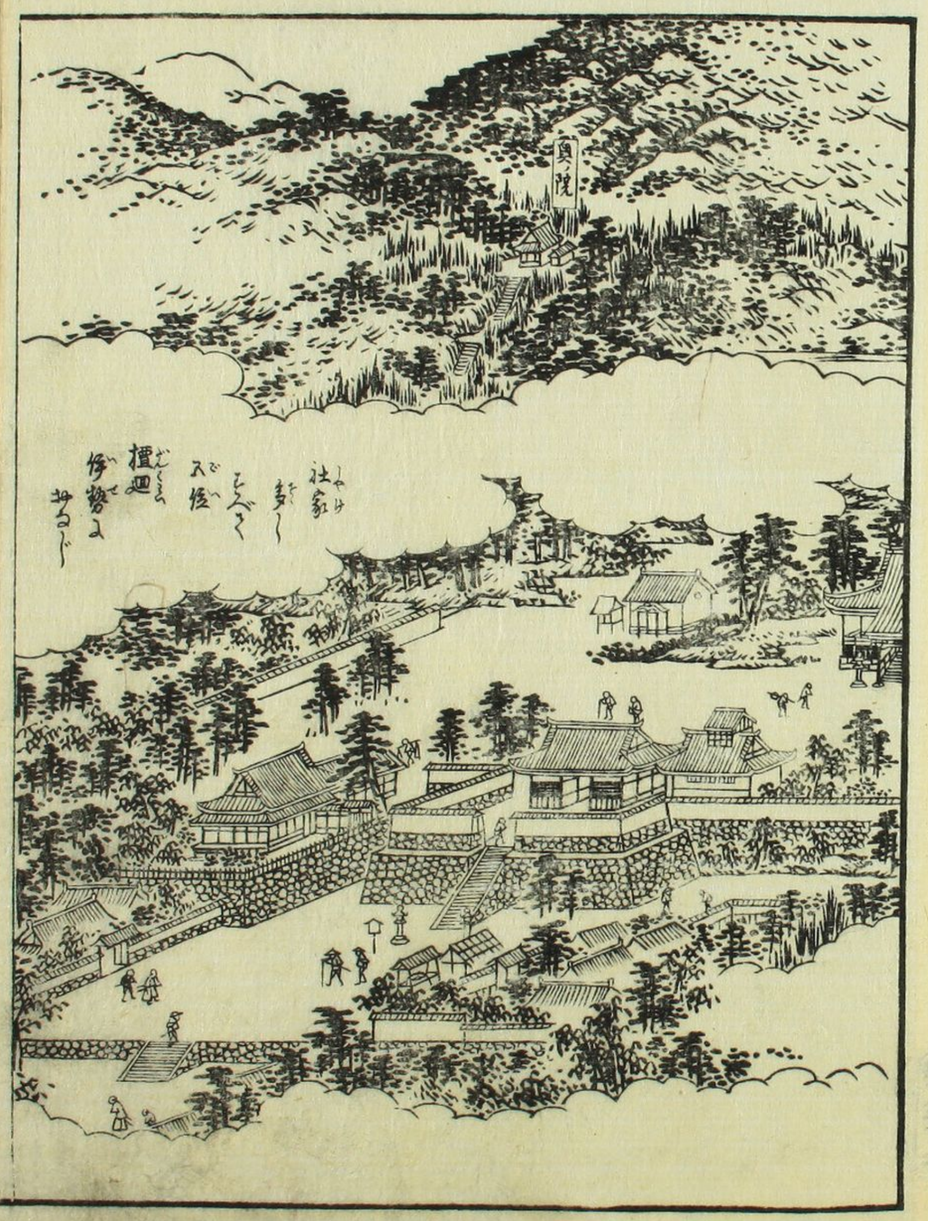
を以て代々実に止職とせり む寺号阿弥陀如来 法日の他 尤に祖師親鸞

聖人の影右に系住上人の像 餘 開に聖徳太子の影十字名号 聖如上人

を南に蓮如聖中真蓮如上人自画の像を安置 小に神拝堂 祇園 に安

廣峯





御田植雜子

八月三日
八日御神楽競馬御田植
雜子とゝ數多あり
又九月二の午日神楽三基
正月十日ふな雲奮流
の神武六月
晦日夏祓
の祓十月
十五日
御植
祭り
月廿二日
御湯立
又毎月
朔日神楽
あり

市級あり 次又集會所茶屋林の家あり其外堂舍莊嚴なり 今寺院の後に亭のみ有亀山の流のうへに寺元れり 英賀よりて家まうつる 寺伝云

山の長くも又收り束を亀のふくは名付て亀ヶ

笘編 英賀日記日本徳寺の西にあり永享十二年結城合戦の時赤松常家西海の刹史の上落と法くくく英賀逃て兵庫松の松と数々編〳〵あるうと云

高岳神社 恰ふにあり 名神 慶仁仲家二帝武内之後崇通盡敬天皇 幸代 猿田彦と合せ祭る崇通八尾森の神舍人親王あり 譽田明神 東南畠

鞆田祠 安田村にあり名神 平拵島姫 山辺若宮赤松 疫ヶ崎地蔵あり

手柄山 一名三輪山と云 揚名 今宿より十丁斗南之結城軍記に菊丸を水 後國菊西十郎が道と云 遂て討死 名瀧流氏重居うて

山氏生産社あり大己貴と称る山僧坊 乙又微る刀剣又手柄山 樵と称る 八荒神祠 今荒廃して実法寺村東の神と小祠あり古人シヤカウジと云

三和大明神 三輪村にあり 名柄山三輪神社と称あり 御館 日郷にあり 後醍醐帝 行宮の遺跡と云

社摘兵庫神社 辻井村にあり又外夫の神 会せ祭る名神又十猛大己貴四八八尾岩之命也 御所清水 日本武尊帝書写山 幸の時山水を潤進 名と寺

手野の里 書写川の南にあり 名 俗伝 日平井保昌 橘麿等 山法山湯の跡 附撰保郡

城山 城あり 紙三百九十人の属 後 弱 さを 弁 弁ぶ

きるぐ呼ぶ又強奪ぐ女房と呼ぶ 長六尺九寸 大力十人と称る武の人の衣服を剥 名宿物と奪ふ 敵ありて強奪と摘 先山里人切捨て後前と称 らしいと云

夢前川 一名書山川 宍粟郡の山中より流して書写山の西を巡り 英賀庄 海へ入又一流 雷 山の山中より流して 夢前川の流 英賀

うつふはさてもいさぎの橋麿 夢前川の流 英賀

夢前川 古事記 忠見

夢乃夜の夢さき川を漕ぎ出 夢前川を流れ 忠見

名所

青山 山湯道の 八雲神抄 松茶集 岡

青山 八村中 まを

夢ふとよこぎる雲のいちまるく我と名をして人をうらう 坂上良安

御井隈 書山の西 書山乃村中の小名 小名 井隈 書山乃村中の小名 地末 詳 天皇十三年八月橘廣國井隈の 人文石の小磨 天皇紀 暴虐 暴虐の路中の通行を妨げ

又商船の財を奪ひ王化に随はざるゆゑに行く甚目小野臣大樹を遣して小麻呂が宅を焼く其時火中より白狗飛出て大樹を目さして追ひかゝる其大きさ馬のごとし大樹神名を称へせば刀を抜てこれを斬るに狗化して小麻呂の形を現ず

青山祠 今祠なし 田圃にあり **稲岡** 青山にあり歸化人丸播磨守たりし時家に止宿せし神を祝ひ祀るといふ **浅陰澤**○**歌書渕**

妻見岡○**妻山** 青山の人丸の遺跡といふ **稲岡社** 青山にあり播磨守人丸を祭る 像は老人夫婦農業する体

飾西驛 青山の中にあり 山陽道の驛なり

笠寺村古長秦武継宅 聖徳太子に仕奉りし秦川勝が末孫秦武継宅に付て鎌倉の幕府に居けるが文治八月十六夜の月に先で我を忘て笛を吹しが将軍家これを感ぜられ播磨へ下し笠寺の地を下されける後に一族によりて罪を免るゝ例古今なし

笠寺薬師 飾西村中人家の後にあり 則ち実法寺にありしなり

英賀日記に村通妻白髪一首

聞よりも妙なる寺の光まては瑠璃の色さへ老も来にけり

大歳祠 飾西村 **實法寺** 菅生庄今の観音堂なり **一宮神社** 実法寺村中に社あり 今小祠なり

法傳寺 余部の庄蒲田村にあり 建仁門院の御祈願とも又般若門院の御祈願ともいふ

(濵)

網敷天神 津田村にあり 菅神西近の御時爰に船を繋し給ひ纜を敷て其上に息憩給ふ 播磨紀に曰此辺天満宮の社多し就中津田を第一とすとぞ 小禾家寄附状に見えたりと云 毎年六月二十五日当社祭礼あり○縁起須一乃網敷天神に同じ境内に古跡あり年号長久と見ゆ○又異形の古松あり○古画の縁起あり

加茂祠 加茂村にあり **天満宮** 英賀村にあり傍に英賀荒社塩竈乃社あり 八幡吉日を相殿に祀る 嘉吉三年三木家建立之

英賀城趾 英賀庄中濵村にあり初め三木右馬助通近の居城なり爰に八代相続して天正年中三木掃部介通秋に至て別所長治に荷担あれば秀吉公の命として羽柴小市郎三木の長三を余騎にてをしよせ責戦ひしが城兵ことごとくほろび大将掃部介及び一族の家臣と共に皆浮人となりて出ける天正八年二月十三日英賀落城して一郡静謐になりぬ○英賀は三木通近より九代の間の城下にて今村中に古城又出口の名又鉄の名などもは字に残れり又英賀の市とい古より日本紀に餝香乃市と見へて往古より即ち飾万の市と云ふになりしものの是也○此辺の浜を田井の浜ともいふ

白牛 当村の長が家に唯雄と云ふ人天下の希物なり○近年江府岩本氏守製の白牛酪玉泪丹といふ薬あり家に養ふものも其白牛酪の用なるべし

簑寺 本名西田寺 英賀村にあり 笠寺に対せし名なるべし **大樹清水** 英賀の南にあり至つて清冷

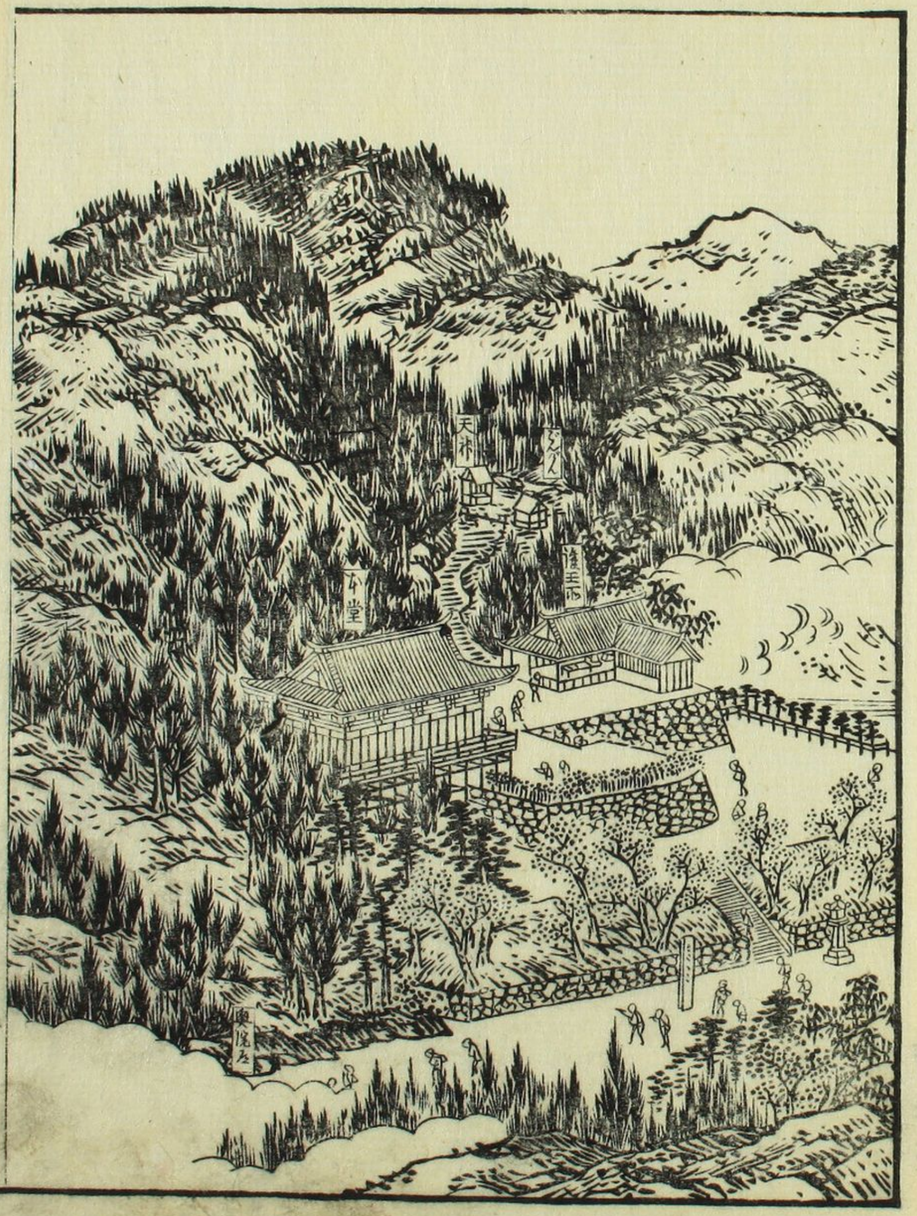
(山)

書写山王院馬場 田井村の西にあり○里俗に白河法皇書写御登山の節こゝより御下馬ありし故にいふ **車寄** 坂なり辻にあり○白河法皇御登山の鳳輦を爰に寄せられし故にいふ二間の芝せあり **女人堂** 善滝落山如意輪寺といふ昔は女人爰にて札を納む **引雲図** 東坂 **紫雲堂** 休足所也

急がし岩 其外希麗学文所の硯石池如意輪の跡は当山より西に八丁ばかり

書寫山
王滝馬場
松のあるやけうの絵えく
彩色
えくせいろ
松ぶふくゆる
せろ中ゑ
ろふくも
ちくぐ
なて
我
ゐ
地室上人

鎌石屋
三ヶ谷



書寫山
第二
圓教寺

第三

坂中の奥石祇石坂乃古法示教くみ等をるが不逆書写山僧院今ハ坊三十院堂坊三十坊あり

書写山圓教寺 新西郡坂本村の上方にあり天台宗 本尊如意輪観世音 大士の像 安置の他 西國二十七番札所

ゆり 釋迦如来 唐渡那乃他 阿弥陀佛 奥の寺に安置 安阿弥乃他 清水 寺の下に流れ出る飲料の水 庭と書院と元亨釋書云ふ

一條院永延二年の草創開山ハ性空上人之本尊如意輪乃像ハ性空菴

居のまじめ傍に桃の二樹あり一日天人降りて樹を礼〳〵偈を述つて曰

譬有生不如意論 能渡有情後事報 赤縁 能生極楽 報一切衆生心所念

悲の像を造りて長一尺五寸安置 宣師其樹を伐て根株を抜て如意輪大

士の像今後内に収む上人頌曰 衆而赤縁 開草陰 士以之為樂 不羨富貴

我不知人 無眼無毒 人不知我 無養無毒

性空上人 俗名仲去 大中臣 構善根の子 仲去其初の名承時朝に仕る 時朝の庄名

時平の孫 時朝嘗て一つの奇瑞を書に珍襲して家に蔵し官爵拝任を

為みこれを視る仲去此瑞を視んとそれども許さず時朝に思あり

年十歳仲去を呼〳〵時朝外に出る紙窟に入て密に筍を抜く杉

〳〵人者に驚き遂て筍に入をとる小誤りて石落して破う

仲去大きに怒る児童仲去をよつて泣〳〵ゆう汝驚くゆゆるをとそれを

伝る時朝去に怒りて曰此瑞い鼻祖鎌足連任吉の祥に接りゆひ

代〳〵伝へて吾に及ぶ汝家窟を破壊とるい家の滅亡を招く邪祟

ゆ〳〵人其罪軽〳〵ゆ〳〵怒ち首を刎ゆう仲去大に悲しき涙

数心〳〵 附に年三十六 人乃ゆゆらぐる日州霧島山に庵を結び苦行食蔬を

志ゆ〳〵れども常に面に微笑相あり日州に居る四年にして籠業

背振山に移り其後書写山を開き寛弘元年三月十日に寂と九十八

教書に三月十三日に玉て法義を演〳〵て寂に 元亨 年八十とあり 伽藍開基記釈書に月〳〵

著聞集云法皇書写山に幸に対面の中畫工を〳〵て上人の像と

図せ〳〵む時に山動き地震ふ法皇恐怖給ふ性空の日懐むゆゆ

我像を写〳〵む乃去り親み小き庵あり畫工去り〳〵ていまゞ是を

図せ〳〵震動に驚き事を奏し奏聞に〳〵て庵の形〳〵如造人〳〵これを感

信に今に宝蔵にあり

○寺伝曰花山法皇上人の徳と感じて寛和二年七月小仙郷とめぐりして此山に幸

また上人其後長保元年三月又日重て佛聚の附上人の通宝山弥勒寺より
法宝院より[illegible]の寺へ消滅し一日御遍宝あり上人の幼時を祀る上人の飯室の遷
源氏閑[illegible]の勅して像をうつさせ都より遷幸〜給ひ画所長者[illegible]
させ異字親王渡文と書て参詣右大臣右京[illegible]
上人九十三歳の像を又安藤[illegible]者
○後醍醐天皇源成国より遷幸の[illegible]
[illegible]諸国を巡れの後[illegible]
を初て書る法華一部歯[illegible]
[illegible]の他の立大る其外上人[illegible]
日一山岩上○寿吉三本夷の附宝山

坂本城趾 金郷庄西坂本村なり 城主赤松左京大夫満祐之明徳の京合戦より武功を旋〜夫より威風嬾んみ〜て歓楽の余書写の[illegible]に手城を築き是と御構へ御所とも云ふ此時将軍 義教公 満祐が奢侈と悪逆ひ不[illegible]を没収せらるべきよし満祐大夫驚き遂に謀を企て一族を引具〜上洛し西洞院の舞基に於て猿楽を催して将軍を招請し公家武家の見物多きに兼て工みのうれば入真の宴に馬を放ち座中を驚せ其時満祐が家臣長五郎教祐左馬介則秋倫〜と立出て軍を守護し体まて義教公を殺〜首を抽て包まて良

給ふ指せ帰り名暴悪無道いとたうし

水田城趾 西坂本村にあり 城主赤松左馬介則頼父い弑逆宇[illegible]則嘉吉元年六月廿日日満祐義教公を討奉り後命全して日本を離れ朝鮮に渡る

揖保の稲穂 日本紀抜を[illegible]

川原村 左田郷原村にあり 黒岡明神 左田郷原村にあり 俗に橋敷の原の祠

黒岡天神 日不詳 天満宮を祀 稲荷の社 黒岡の宮 黒岡の人

楽〜天神 左田郷左田村にあり 竹川 左田郷[illegible]

左田寺 左田村にあり 楢岩城趾 左田村遺[illegible]

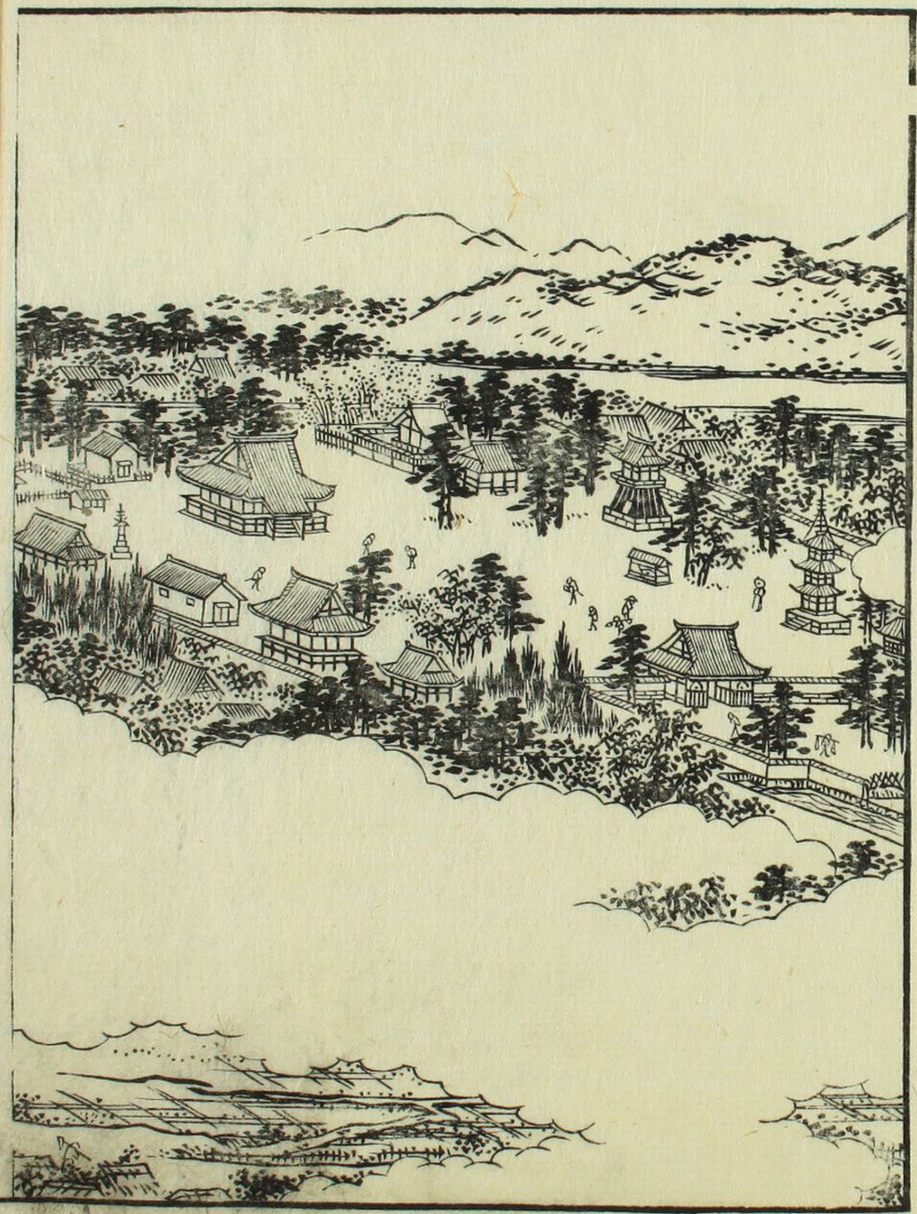
根本寺 左田郷西脇村にあり

揖歩清水 左田郷黒岡にあり 揖州十水の其一つ

斑鳩山班鳩寺 能驢有 天台宗 本尊 釋迦 薬師 観音 三層塔 釈迦仏舎利 倫敦に納む 弥勒堂

山王社二王門 瑞樓 富小川 伝教の原 聖霊権現 左子夜の殺害 桑田明神

七橋 此外寺宝多〜 昭堂 [illegible] 櫃特山 弥紫松 蹄石 [illegible]



班鳩寺

日本紀に云聖德太子政事を摂行ふに佛道を濟て國家を補佐し給ふ推古帝の勅によりて十二年大和吉野の宮に於て勝鬘經を講じたまふこと三日に法華經と岡基宮に講じたまふ天皇如義を信受し給ひ所感の餘り播州揖穂郡の水田百町を寺に納め給ふ即大和國斑鳩宮に納る其後山地の建立ありて斑鳩の莊斑鳩寺と唱せらるる御自画世五才の歳い法華經講演の体相り尚寺第一の尊像にて寺堂に安置若い諸寺僧侶壮なりしが天文の兵火罹りて其後の再営今の如く成就せり

斑鳩 長徳雑集 ○本紀に聚田義真赤松を誅んとて六万余騎ありしが此の所にて十余日過ぎしと云

糸の井 石見荘糸井村にあり清水あり

松尾山観音寺 同荘松尾村にあり 新勅寺とも云

小山田を郎高家刈書変地 廣山荘三岡村の里長の所務記に見へたり本紀には播州とのこと有て郡邑を記さるに幸い虎女塚の歳ひに記せり 寺僧

金輪山小宅寺 斤山村共言宗 幸る異説門天

八幡宮 廣山村にあり

阿宗神社 武内之廣山荘阿宗村にあり古老の口上代い三岡山にあり 創宗九月十又日

乗願寺 門前村昔大寺にて小地にある大地國所出石の地にあり 近年宗地大德寺より金あり其やしき跡に小庵を免許あり 光徳一人居住

揖保川 揖保東西の郡に網干より源い宍粟郡に発源して伊曾三谷又十波に至る 揖保川 公文川 宍粟郡より落合て長さ十二里

濱

古居 網干郷東西二村にあり東西の間に若宮にあり 松ヶ丘ともあり 昔人古居跡と云 居跡 昔人の田の南にあり里説に

然見 昔人の田の南にあり里説に 海仲の殿ありと云ひ伝へ

宇須岐渓祠 網干宮津八幡宮に 福井の宮門村にあり

朝日山大日寺 福井の宮朝日谷村にあり 共言宗

鶴之山大覚寺 網干所の傍 共言宗

抜石城址 福井の宮網干にあり 元亀年中明石後者寺正第これを守る

林松寺 上に日本にあり寺内に古松あり 枝葉繁茂して枝葉を根の松に似たり

丁村 福井の宮より西村 朝日山の南にあり 傳曰後醍醐天皇岡國行幸の時赤松家より下和

丁のもり十ヶ村が撰出 名を内ヶ山村人別に殘八文下る云

丁の下つくり名あり古へ御下しの人数ありしと有 ○村中池上寺薬師あり

金系

みつき物さこびよりとい山てゆまの里人かをそひよりり

けぶりの後中二方郷とよめるとよりり浦より出たのく

陣屋 沖須村揖保川川尻より九丈欠ホの入川あり

化粧坂 新生家にあり今絶

家島 揖東郡より屬し八里沖おより四里代の牧へ

一名御牧の浦 此島は播南の陸地を去ること

武ハ三里武ハ五里ゆゑ上ハ養浦より下ハ隆家浦まて東西八里

南北三里其間より大小の浦〳〵二十餘箇所都て家浦より連る淡奥松浦

より相似たり。家浦の家〳〵義ハ江湾三方よりかこひる形よりく

室〳〵なれハ此室も家のゆゑ舟の泊よりしきをれて室より家まは

入りいるる洪濤大風なりとも舟を家より泊むれハ足より舟と

も出せりうんぐもたるを島うんが千帆一附より繋り一附より数ハ奥

の群るゆゑ也て多し舟より居る者多くハ渓者之漁より天然の泉水より

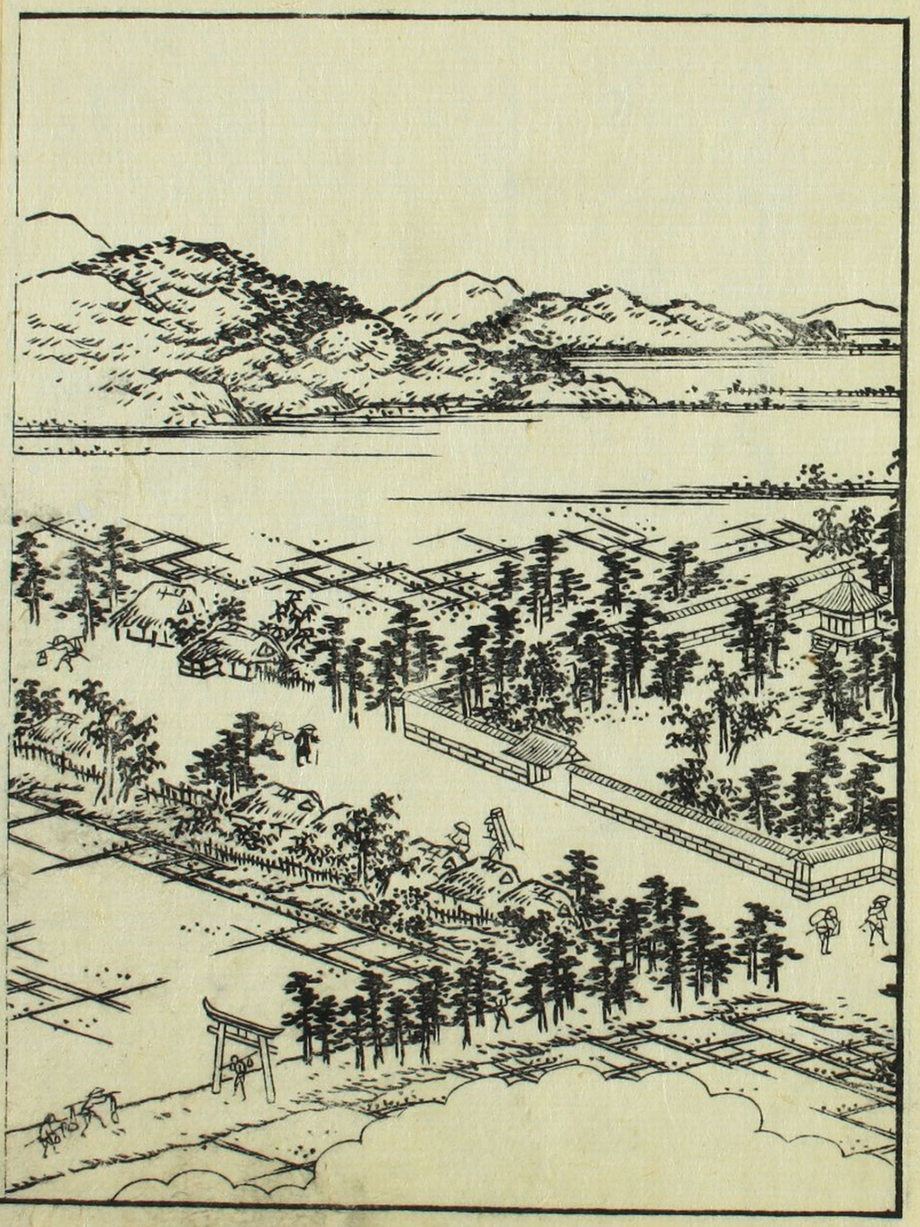
居るゆゑ国縁集より繪浦とハ用ひ来るべし

家島神社 家浦にあり延喜式神名帳 祭神猿田彦命 元慶七年九月九日建

在之人白髭大明神と稱ス。天満宮 家浦天満浦より

赤坂清水 家浦坂をけのちくにあり 俗より法道仙人汲初給ひしより

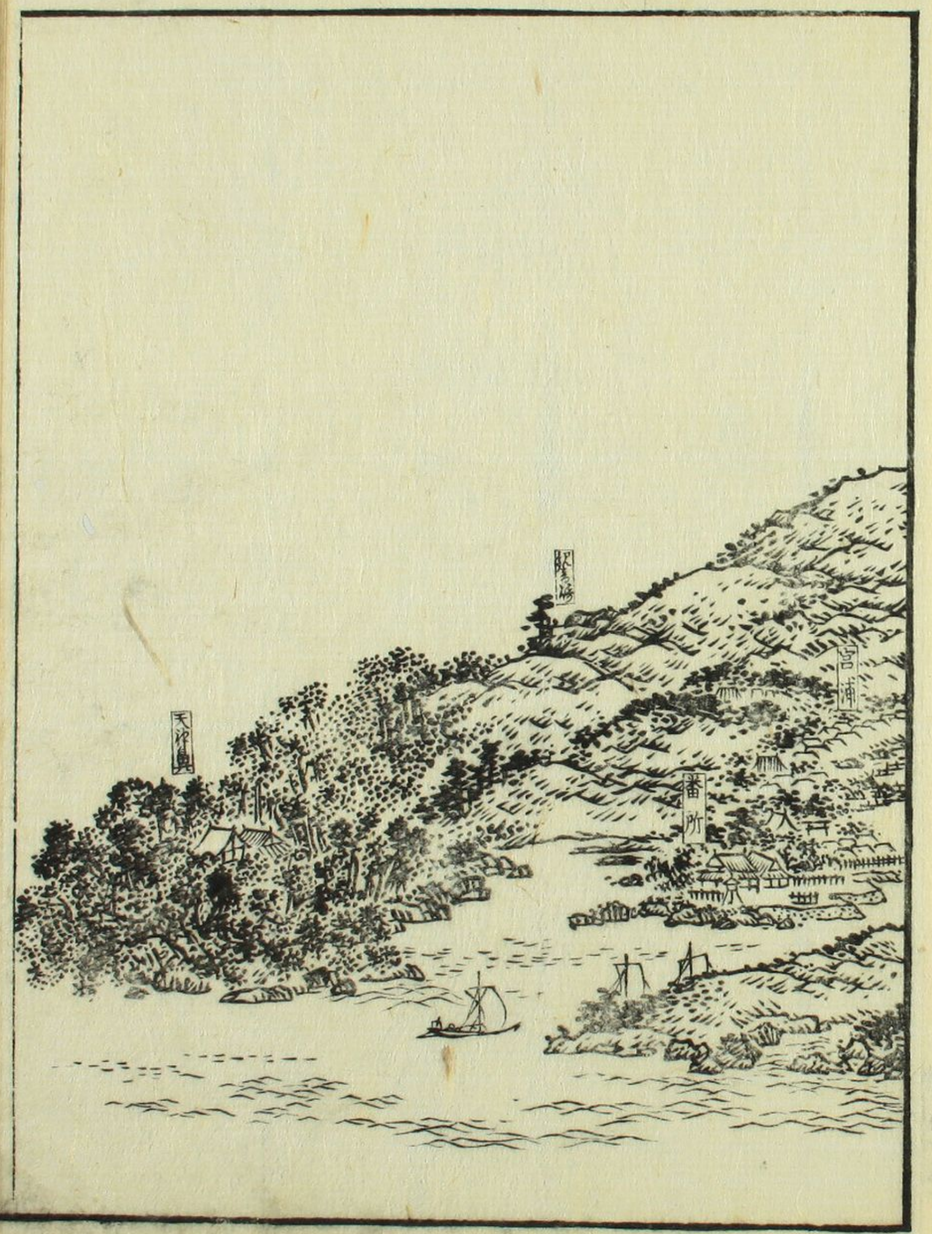
旱天より涸ル霖雨より溢ル浦ハ各みな



紹于
宇頌嶽津
八幡宮

祭神應神天皇
正永年中若狭
助氏郎ちゝ者
再宮ゝ
例祭八月十五日
社傍を流宮山
多賀流

家島
家島の名よこそ
みたれ海原
あの色
きつる
時雨
浦人石和
玉吟
明ぬとや浦の
家しま
くもあくる
まき天の戸
日ぞさしける
孟浦
播磨灘
伊勢山
宮浦


播磨灘
宮浦
天神島
番所

丹羽島

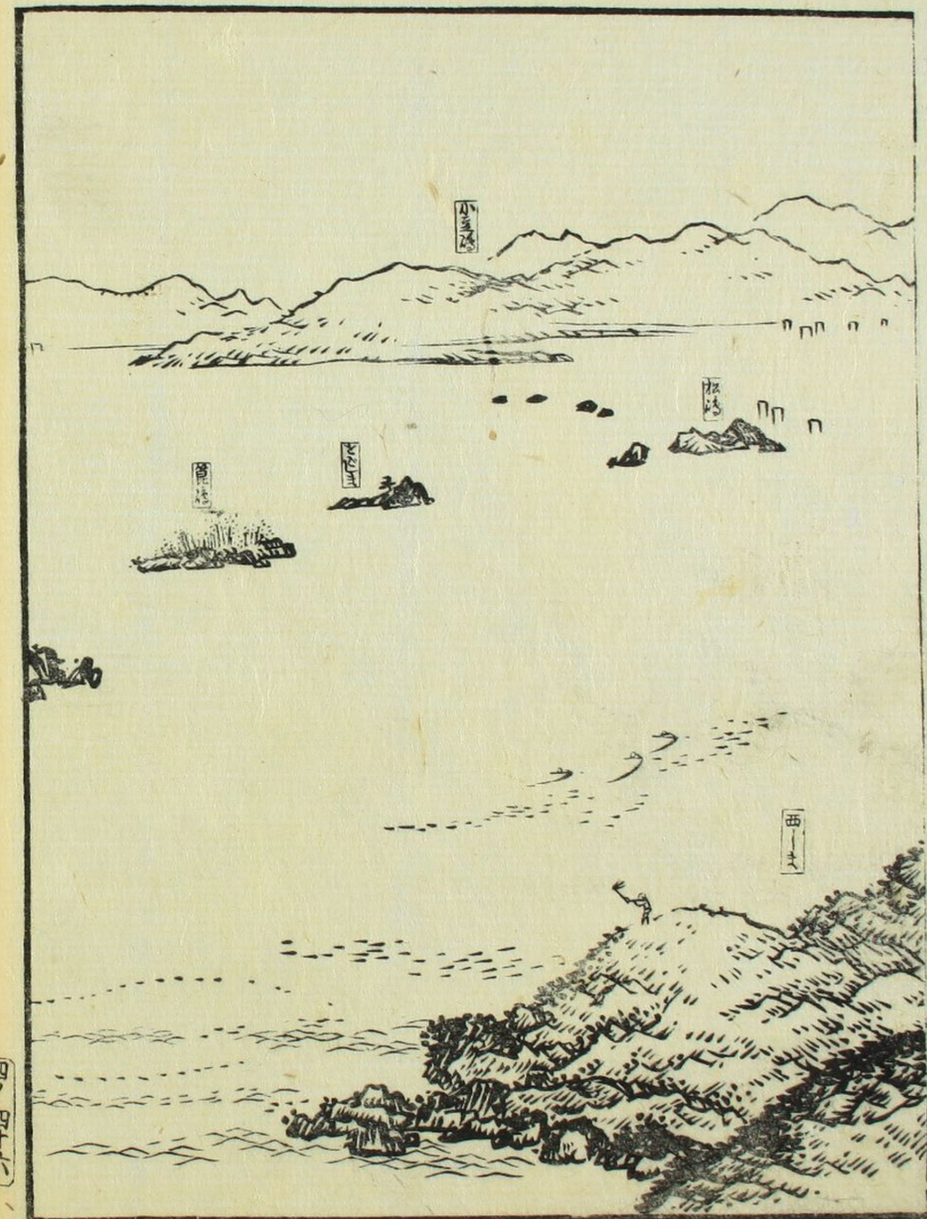
丹羽島のあんぐうびてたえ
人家はなし茅樹数あり
生ひしげり番人二人あり
はるかに磯松ばせく
波光を吸う羽多
く候

松島

家島南三里よりつ
ゞき領の馬多し松
島牡鹿の郡うらや

鵜掛島

丹羽の東少し小島
かうちかけうて名つ



楯ケ島

丹羽島の
波の鼠八百

坊勢島

坊勢寺の迷跡
湯成浦の御ゆう
元亨七年比叡山
実相院承光僧
都仏像を配流の
時変剣一振八
四社方り

投島　佛岩

八重岩

元樽西郎を葬して
海中あり　仮屋村より
汀と去る二丁ばかり

観音崎　家傳あり俗に法道仙人大日寺の記世書を割し霊夢を以て彫刻し給ふ云々

長浜浦　家傳あり播州姫路にも同名あり

山

相野　大市郷相地村飾戸伊保の界にそびえる峯なり

白鳥の園　あたしの南にあり　人うえ池あり　多くしの珊瑚より生ずるを獲る

○武人云　源義家朝臣奥州征伐の時武天皇と祀る

破磐神祠　大市郷西脇村にあり　破磐石を神とす　いくつ元亨釈書に大石と破て真珠を

風早嶺　伊勢村の東の峯　古跡便覧曰此峯の岩に水入り六寸入べき穴あり云々

今登りてこれを其穴に入るに風早より小又六丁の峯つき大石岩の頂に松生ひたり其岩礧砢として上に又高き小松の生ひ出

でたる其穴の不可思議なるべし　されば昔より此風早にこれを云ふや

尚考べし　昔なのだ〳〵稲生出でたる此岩なり

稲根　大市郷峯相山の麓に出る稲根を獲とし　諸国に稲なるべしと命じ給ふ○但し此国ほとんど

〳〵作り名れが此稲を獲とし　てこれを神の国号の流なるべし　とく播州の産

揖保の稲穂なり印南の稲日子赤穂赤穂なり播州の赤穂

甚上品なるの世に知る所なり稲とイと訓るの日本紀神代に

へるなり延喜式粒と郡名にも書なり

峯相山鶏足寺跡　北に村あり伊勢村の東の麓石鞍村に接す　西播第一の伽藍の天山の

始なり法諸寺相跡四塔院七八坊ありなり小郷民の修理に焼亡

峯相記と云書あり　播州園田の古跡とあるして鶏足寺の僧の著

作なり　紀堀今と中なるに大門の跡上伊勢村にあり　大石岩　峯相山の西南の風早の麓にあり

大師村　延喜式に計者楼塵調池田加と云ふ所の行地なり　焼し大瓶のあり山上其跡今にあり

大納言伴善男墓　陸奥山の麓池中にあり　傳曰善男郷の清和天皇に仕

て大納言になり貞観八年伊豆国に流罪に処し十年配所に死し

年六十其附峯相山鶏足寺繁昌の附て善男なるて大門茶毘

草庵を結び居に其地なるべしとつり善男の子の中庸豊

城秋実清縄なと五人あり字治拾遺に善男焦天門を焼する

事及こうけの國史なども西墓い後世伊氏の人家みありて
建立するべし
法善寺 赤穂寺流之先住若男の赤穂の
和漢とつうみ外ゑ西殿と云あり
按坐天照神社 伊勢村にあり延喜式神名帳に出
古人伊勢神明宮と稱し粒い即揖保郡
社記日安閑天皇元年此
地の縣主飯粒といひし人良田に拾町天皇へ獻じしるゆえ人の
名と郡名を呼ぶ云 後世二郡として揖東揖西に但し此流誤
又日本紀雄波と及ひ播州みあり
神坐窟 粒神社の山頂にあり天狗窟と
甚廣く高里俗ウトロキと云
岩屋赤松氏城址 岩屋の小の峯でき
みあり
一筋川 伊勢村の西の方より此岩甚廣く
流る川にて長流る川にて長流
大堤村 伊勢村の西の方より此岩甚廣く
溪水九町ばかりにてあり
林田陣屋 赤西武丁斗九町の長さ十又六丁あり
赤西武丁斗九町の長さ十又六丁あり
構居村南小又丁
祝田神社 武内之林田の 祭神高樹加義神義都波女神 林田侯西方吉松山乃
日本武尊熊襲及び出雲の魚師と
神乃風雅を此二神と祭る
神とつり雨を祈る山は水徳乃神なれいかり

水波女 妹脊窟 惡松原 白毋水 殿守神
うけひつむしうへ久神象い殿を拂へ守ってそ乃 李房
大ゆ田の森乃神樂ゆをうつちて惡神とそやゝふそ乃 久老
境内ゑ丹楓龍眼木の大樹あり 達部内近頭源政宇の歌乃石
武曰丹楓の和尊は享保年間東西に栽ゆ今ゑ大ゑ象大ゆる 拙庵又す 綿の葉
のゝし所ゑ日本のうへでなに楓の字とあてうり秋い葉ふ紅くなりて甚歌
詩ゑ丹楓と詠ぞるもの是ゑ
琵琶山 林田社の南にあり 八幡宮 毎國ゑ八幡宮あり 田國人家く此社へ系譜を
あゝ此八幡ゑ八幡い神東郡八幡村乃八幡なるべし
陰乃岩屋忘水 岩坂の南にあり
松山城址 林田氏松山村ゑ氏是長門守村氏 ときは木の陰のいと安のまもるゝ家と業と名ゑ
張城と永正年中赤松政村美彦に 世木拐城址 新部氏紫陰村ゑ赤松の旗下世甫陰
新宮陣屋 宮内ゑ
あり
ゑ本彈 山陰道飾西より家ゑつゞて佐用ゑつるいゝ川より一里斗天正ゑ年
上月城麦の好秀吉皆くゝ家ゑ左淨に今ゑ玄ゝふ人の居住乃
備後の長次郎尼崎門ゝ
依藤雅次墓 日村伊福寺ゑあり
岳飯遅遠のゑ国州ゑ到り伊福寺亀山ゑ

窪山城趾 林田庄久保村にあり 谷沢甲斐守助國武これを
寄る正平年中赤松没村城陥ぬ

佐見山 奥さみ村にあり

たまもかるいさりてたきまし さみのかみのうへきをとをよそ沢や

郷祇山神社 沢田村にあり 境内の白檀の樹あり

崖蘭清 鶴の形に似る山の其尾傍 ものそ神の森 沢田村の逸にあり

城部禅尼塚 城部庄希保村 山脇にあり

古へ城部細川の邑として冷泉家世々の采地 今も細川村中にあり 皇太后宮大夫俊成卿の御女の儀として

播磨国城部の庄にて不祇人知る所を地頭の妨げ

多く行りくれが若武郎の詠歌へ奚なる詠歌はあるで糸

らせるを行る

君ひとり後るき麻の数をとをる

赤時久し

よみ中の麻い跡なくなりぬ心のまりのもきのこして 彰勅撰

と詠遊ぶも及ばず廿一ケ条の地頭の掟法を皆こゝろらるを行り

其後神中の清水をこゝろ神中の清みうげとをる 彰勅撰

忘るゝ事ぬりと心のみ身の

と詠ぶるも其城部の庄へ下らるる歌なり

奥書曰 阿佛い安加門院の臣条ゝ人宮家卿の息ある家の室云遊五
人ある民ある数ある教ま」く後剃髪して其法名ある孫倉へ下れる
紀行十六歳日記なるあり

弥生乃比播州細川村へ下向 城部
殆玉集曰 大納言政為卿家八世の孫

庄南社へ参り名佐神宮まて

○按るに佐神村の神社は後田村神の名なれい佐神宮
あるべきなり三十年ばかりと隔きて佐神の宮恒持ぬ歎を

三坂の社まて 今三坂村にあるべし 按るに小野村坂の小社なるべきなれ

うゝ」に三坂の松のこゝろ縄めぐりあふ社命ながきも

二月十日此所まて身まうる母のこと三十六年ぶり行るまこと

まりぬとまり行りて墓所に参り思ひでけり

うゆりたる孫生の宮と兼ひ来ぬ苔の下に我や結ん

むしろ敷けり石面苔のあり門より社屋に行る石磴苔蒸し古べるう

十三世のまう住しし古奥源く磯るも瀦し紫のり唐

政為卜白の時の他人の所地と為るを四位の右衛門の尉の家の方へ寄せ遣るべし

亀甲山 城部の中係にあり 赤松古塚共外也

唐猫谷 此谷の谷へ 花垣清水 城部左佐地村にあり 十水の其一なり